



浜松市立 県居小学校

創立百周年
記念誌





あがたいのびし
あがるい声で、あいきさ
かんがえあい、おかるまで
たくましく、心も体もき
いしょうけんめい、みんなのた





大正



昭和5年(1930年)



昭和33年(1958年)



昭和54年(1979年)



令和元年(2019年)

校歌

原作 杉浦 喜美子
補作 石山 脩平
作曲 佐々木 すぐる

一、

県居の
おきな御名を
学び舎に
仰ぎてつけしゆかしさを
はるかにしたい学ぶとき
希望新たによりみがえる
友よいざ
楽しき庭につどいきて
文化の花をいざ摘まん

二、

赤石の
山々北につらなりて
うすむらさきにけむれるを
あしたに眺め学ぶとき
こころ清らにすみわたる
友よいざ
明けゆく空に鳴り響く
平和の鐘をいざ聞かん

三、

南に
遠州灘のあらなみを
浜辺の松に高鳴るを
ゆうべに聞きて学ぶとき
夢ははてなき海をゆく
友よいざ
いとおの潮路のりこえて
世界の幸をいざくまん

ま な び や
わが学舎
あ が た い し ょ う が っ こ う
県居小学校



目次

ページ

- 1 校名・校章の由来
- 2 県居小学校創立100周年記念事業実行委員会
委員長・副委員長・事務局長 挨拶
- 4 浜松市長 祝辞
浜松市教育長 祝辞
- 5 歴代校長
- 8 歴代P T A会長
- 9 歴代校長より
- 16 県居小学校の歴史
- 22 年表
- 31 卒業生より
- 32 五輪の山
- 34 賀茂真淵翁



目次



ページ

長縄跳び 36

茶道体験 40

100年目の県居小学校 43

百年目の卒業生 48

-今のわたし- 百年目の在校生 50

-今の県居小学校- 百年目の在校生 55

-未来のわたし- 百年目の在校生 61

-未来の県居小学校- 百年目の在校生 64

節目の県居小学校 66

創立100周年記念 記念碑 68

学校教育目標

共に生き生きと学び続ける子

(知) 学びいっぱい

基礎・基本の定着

- ・個の実態に応じた支援の充実
- ・学習習慣の定着
- ・家庭学習の充実

主体的に学び合う子の育成

- ・身に付いた力が実感できる振り返りを通した授業づくり

豊かな言葉づくり

- ・県居に学んだことを誇りに思う活動
- ・心と表現力を豊かにする読書

(徳) 笑顔いっぱい

道徳教育の充実

- ・思いやりのある温かな人間関係づくり
- ・自己肯定感を高める取り組み
- ・道徳授業の充実
- ・家庭との連携

学校をよりよくするための特別活動の充実

- ・目的を意識した係・委員会活動の充実
- ・話し合い活動の充実

(体) 元気いっぱい

体力の向上

- ・体育科学習の充実
- ・計画的な朝運動と運動イベント
- ・自発的な体力づくり

健康な体づくり

- ・保護者と連携した保健指導
- ・主体的な健康の保持増進
- ・食育の推進

安全な生活の推進

- ・安全な生活を知る体験活動
- ・安全意識の向上
- ・情報モラルの向上

学級数・児童数の変容

年度	基準日	学級数	発達学級数	児童数	備考
昭和17年		26		1603	
昭和18年					
昭和19年					
昭和20年		12		661	
昭和21年		14		807	
昭和22年		15		922	
昭和23年		17		1048	
昭和24年		21		1190	
昭和25年		23		1291	
昭和26年		24		1418	
昭和27年		26		1471	
昭和28年		17		807	移転
昭和29年		18		870	
昭和30年		18		912	
昭和31年		20		986	
昭和32年		20		1013	
昭和33年		21		1027	
昭和34年		21		1041	
昭和35年		21		977	
昭和36年		20		913	
昭和37年		19		853	
昭和38年		18		808	
昭和39年		19		807	
昭和40年		19		790	
昭和41年		19		799	
昭和42年		19		767	
昭和43年		19		740	
昭和44年		19		711	
昭和45年		18		681	
昭和46年		18		647	
昭和47年		18	1	603	
昭和48年		16	1	570	
昭和49年		15	1	526	
昭和50年		14	1	488	
昭和51年		12	1	456	
昭和52年		12	2	446	
昭和53年		12	2	437	
昭和54年		12	2	438	
昭和55年	4月20日	12	2	454	
昭和56年	4月20日	12	2	440	
昭和57年	4月20日	12	2	435	
昭和58年	4月20日	12	2	406	
昭和59年	5月1日	12	2	409	
昭和60年	5月1日	12	2	393	
昭和61年	5月1日	12	2	369	
昭和62年	5月1日	12	2	365	
昭和63年	5月1日	12	2	344	
平成元年	5月1日	12	2	353	
平成2年	5月1日	12	2	334	
平成3年	5月1日	12	3	342	
平成4年	5月1日	12	3	346	
平成5年	5月1日	12	3	342	
平成6年	5月1日	12	2	329	
平成7年	5月1日	12	2	319	
平成8年	5月1日	12	2	310	
平成9年	5月1日	12	2	315	
平成10年	5月1日	12	2	323	
平成11年	5月1日	12	3	326	
平成12年	5月1日	11	3	317	
平成13年	5月1日	12	3	311	
平成14年	5月1日	11	3	283	
平成15年	5月1日	10	4	285	
平成16年	5月1日	9	3	274	
平成17年	5月1日	9	4	274	
平成18年	5月1日	7	4	251	
平成19年	5月1日	7	4	237	
平成20年	5月1日	8	4	240	
平成21年	5月1日	9	4	265	
平成22年	5月1日	10	4	265	
平成23年	5月1日	9	4	250	
平成24年	5月1日	9	4	257	
平成25年	5月1日	10	4	264	
平成26年	5月1日	10	4	257	
平成27年	5月1日	8	4	263	
平成28年	5月1日	7	3	238	
平成29年	5月1日	8	4	243	
平成30年	5月1日	8	5	245	
令和元年	5月1日	9	5	250	
令和2年	5月1日	10	6	255	

校名・校章の由来

校名の由来

県居校の学区内には、郷土の先覚者・賀茂真淵翁（東伊場出身の江戸時代を代表とする歌人で、本居宣長の師としても知られる偉大な国学者）の生誕地がある。

「あがたい」という学校名は、大正9年当地に小学校を建設するにあたり、是非よき校名をと浜松市当局並びに学区の人たちが考え、翁が称する「県居」という号にあやかって付けられたものである。



真淵は、自分の好みの田舎風の家を建てていましたが、ようやくできあがったので「県居」と名付けました。県居とは、家も庭もすべてが田舎風に作ったすまいという意味です。

～ 「県居読本より」 ～

校章の由来

浜松は波濤逆巻く遠州灘を望むところ。この浜松母なる県居校の校章も図案化された荒波で、浜辺の砂のイメージへ丸ゴシック書体に考案した「県居」の飾り文字を、小判形に取り囲むデザインとなっている。

なお、左右一对の高波頭は、双方の手五指ずつの象徴でもあり、真淵翁建学の精神を両の手でしっかりと包み、県居の心を学ぶという願いがシンボリックに込められたすぐれた意匠となっている。

この校章に白の波線の入った学帽によって、どこの学校か見分けたものである。

（70周年記念誌参照：24回卒業生同窓会誌より引用）



県居小学校創立100周年記念事業実行委員会 委員長
令和元年度～2年度PTA会長 本多 正明



ご挨拶

長い県居小学校の歴史の中、創立100周年を迎えるこの年にたまたまPTA会長に就いており、県居小学校創立100周年記念事業実行委員会の委員長を拝命いたしましたことに運命的なものを感じております。若輩者の私がこの大役をなんとかこなせたのも、県居地区連合自治会長をはじめとする各町の自治会長の皆様、県居小学校PTA役員の経験者の皆様、校長先生をはじめとする担当教員からなる実行委員会委員の皆様の多大なるご尽力の賜物であります。

100周年記念事業は、「記念式典」の開催、県居小学校のランドマークでもある「五輪の山」の修繕を含む「記念碑」の製作、そしてこの「記念誌」の発行の3つの事業があります。これらを実行する段階では、実行委員会のほか県居小学校教職員、PTAの皆様にもご協力いただきました。そして、PTA、地域の皆様及び卒業生など関係者の方々より多大なるご寄付をいただきました。

改めて、この県居小学校をとりまく地域の皆様、卒業生の皆様、学校関係者の皆様の絆の深さを感じており、ここに厚く御礼を申し上げます。

この創立100周年記念事業が、県居小学校で学ぶ子供たちのためになり、次の100年に向かい小学校及び県居地区の発展のためになることを願っております。



県居小学校創立100周年記念事業実行委員会 副委員長
県居地区連合自治会長 西菅原町自治会長 稲垣 元昭

県居小学校百周年を祝して

県居小学校創立100周年、誠におめでとうございます。県居地区8町の連合自治会として、お祝い申し上げます。県居小学校は県居地区の誇りであり、地域の宝であることは言うまでもありません。

私も終戦後の1年生で焼け野原の中で県居小学校に入学、上級生は校庭にベニヤ板で造った校舎で勉強。私たち1年生は今日は西小学校、明日は賀茂神社の本堂と、母親が作った布のカバンを肩に、そして祖父の作った木の机も肩に担いで毎日移動しました。

南校舎3階の郷土資料室に当時の大庭校長の希望で自治会8か町より様々な備品を寄贈していただき、展示をしました。荷車、脱穀機、もみすり機等々今の子供たちにはめずらしい物、県居校の歴史、地域の姿を学ぶ良い資料になると思います。

運動場の東南の一部(堀留運河)航路1/3を県居校の校庭に堀留運河社長の川島俊吉氏が寄付をしてくれたので、校庭が広くなりました。

私たちにとっても大切な県居小学校の創立100周年をお祝いするとともに、今後の益々の発展を祈念いたしております。

県居小学校創立100周年記念事業実行委員会 副委員長
浜松市立県居小学校 令和2年度校長 池谷 智晴



「子供たちのためになる 100周年にしましょう。」

令和のはじまりとともに発足した実行委員会の強い願いを持った100周年記念行事のスタートでした。「子供たちのために、そして、県居の地域とのつながりのある記念行事にしたい」というコンセプトを受け継ぎつつ二年間のプロジェクトを進めてきています。県居小学校の100年を振り返りつつ、今の県居小学校、そして子供たちの未来への希望をこの記念行事を通してさらに輝かしいものにしていきたいと願っております。

大正9年、浜松市縣居国民学校として産声を上げた本校は、大正、昭和の時代には戦災をはじめ数々の苦難を乗り越え学校の礎を築きあげてきました。平成、令和の時代になって健康教育に邁進したり国語の学習を通して自分の心を表現できる子供の育成に努めたりしてまいりました。

その根底には、本校の伝統である「県居の心」「賀茂真淵翁の教え」が息づいていることは間違いありません。「朗誦」「和歌作り」そして「大御田活動」。他のどの学校でも見られない貴重な学びをすることができる学校であると自負しております。「県居読本」、「賀茂真淵先生～マンガで読む浜松の偉人～」等を参考にして学び続ける心を実践しています。

県居小学校の校名の特色に、「県居」の名は地名から名付けられたものではないということがあります。地域の皆さんが、この地域8町を真淵翁が名付けた「県居」と呼び、大切にし、そして学校の名前にしました。このことには伝統を大切にする地域の皆様の心が満ちているのではないのでしょうか。

そしてもう一つ、県居小を語る上で忘れてはいけないことは、「発達支援教育の充実」です。発達支援学級での指導もさることながら通常の学級でも一人一人の子供に目を向け、それぞれのニーズを考えながらの指導を行っています。子供たちは、人を思いやる優しい心を持った大人に成長しています。

さて、これからの100年。県居小学校は、県居の地域はどのような変容を遂げていくのでしょうか。子供たちの未来、地域の未来に夢を馳せ、県居小学校創立100周年記念に際してのごあいさつとさせていただきます。



県居小学校創立100周年記念事業実行委員会 事務局長
平成28年度～30年度PTA会長 堀 由司

ご挨拶

県居小学校創立100周年、誠におめでとうございます。また、これまで100周年記念事業へ多くの方からご支援をいただき、感謝申し上げます。

当初は小さく始まったこの100周年記念事業ですが、月日を重ねるにしたがい多くの方より賛同をいただき、ここまで来ることができました。学校、地域にとっては歴史を感じながら、子供たちにとっては未来を思い、信じるものでありたいと考え、事業を進めてきました。子供たちにとって学校とは、出会い、学び、そして巣立っていくところです。友や恩師との思い出を胸に皆巣立っていきますが、いつかは還ってこられる場所でありたいと信じています。この100年という節目を迎えるにあたり、その思いをカタチにいたしました。数十年前の子供たちにとっても、県居小学校は還ってこられる場所です。

これからも県居小学校は歴史を積み重ねていきます。在校生、卒業生、先生方、そして地域の方々にとって変わらぬ学校であり続けることを祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



浜松市長 鈴木 康友

創立100周年を祝して

県居小学校が創立100周年を迎えられ、心からお慶び申し上げます。

浜松市浜松県居尋常小学校が誕生した大正9年（1920年）は、第一次世界大戦の後、平和を願い国際連盟が発足した年であり、日本は国を挙げて近代化が進められていた時代であったかと思えます。浜松市は、誕生して10年に満たない頃で、現在と比べると随分せまい市域でしたが、人口は約6万5千人の都市でした。県居小学校は、人口増加、教育への期待の高まりとともに、元城、南、西、東に次いで市内5番目の小学校として誕生しました。

以来、浜松大空襲、戦後の高度成長、バブル崩壊と激動の100年間でありましたが、多くの卒業生が学び舎を巣立っていきました。空襲で校舎が全焼した際には、子供たちの学びを守るため、甚大なご苦勞があったことと推察いたします。鉄道の高架化や道路の拡張等、町並みは姿を変えながらも、下町の人情味に加え勉学熱心な土地柄に支えられ、賀茂真淵の教えに由来する教育が綿々と受け継がれてきました。

今日までの地域の皆様並びに関係してくださった全ての方々のご尽力に感謝いたしますとともに、益々、県居小学校の教育が充実・発展いたしますことを祈念してお祝いの言葉といたします。

浜松市教育長 花井 和徳

県居小学校創立100周年を記念して



創立100周年おめでとうございます。

合併前の旧浜松市歌には「翁（おきな）をしのべ 書（ふみ）よまば」という一節がありました。この翁は浜松を代表する人物の一人、賀茂真淵であることは間違いありません。県居小学校は、真淵翁を表す「県居」を校名とする学校として、創立当初からその教えを大事にしてきました。真淵が古代の日本人を研究し残したこと、さらに真淵自身の生き方は、多くの示唆に富み、その教育的価値は時を経ても色あせることなく、むしろ、予測困難と言われる現代にこそ輝きを増し、私たちに多くのことを気づかせてくれます。

県居小学校では、その教えや生き方を子供でも理解し実践できるよう、1世紀にわたって努力を積み重ね、手法を磨き上げてきました。これは、学校に携ってきた皆さん自身が真淵の教えのとおり「学び続けること」「愛すること」を大切にしてきたからこそ成し遂げることができたと思えてなりません。

100周年という節目にあたり、子供たちが改めて母校の歴史とそれを支えてくださった皆さんの思いに触れ、学校に誇りと感謝の気持ちを抱きながら健やかに育ち、県居小学校の新たな歴史を築いていくことを心から祈念いたします。

県居小学校 歴代校長



初代
村松 十和吉 先生
(大正9年4月～昭和8年8月)



3代
袴田 彦一 先生
(昭和11年4月～昭和22年3月)



5代
佐藤 頼次 先生
(昭和26年4月～昭和28年3月)



7代
山本 太吉 先生
(昭和33年4月～昭和39年3月)



9代
斎藤 陸平 先生
(昭和44年4月～昭和47年3月)



2代
中村 良徳 先生
(昭和8年9月～昭和11年3月)



4代
渥美 武義 先生
(昭和22年4月～昭和26年3月)



6代
川島 與一 先生
(昭和28年4月～昭和33年3月)



8代
吉山 鍊二 先生
(昭和39年4月～昭和44年3月)



10代
富永 忠男 先生
(昭和47年4月～昭和50年3月)



11代
大石 三男 先生
(昭和50年4月～昭和54年3月)



13代
尾上 勝久 先生
(昭和58年4月～昭和60年3月)



15代
小池 恒夫 先生
(昭和62年4月～平成元年3月)



17代
中津川 昌義 先生
(平成4年4月～平成6年3月)



19代
大石 文昭 先生
(平成9年4月～平成12年3月)



12代
河村 初友 先生
(昭和54年4月～昭和58年3月)



14代
大場 秀麿 先生
(昭和60年4月～昭和62年3月)



16代
大庭 勉 先生
(平成元年4月～平成4年3月)



18代
綿本 達生 先生
(平成6年4月～平成9年3月)



20代
齋藤 和子 先生
(平成12年4月～平成15年3月)



21代
菅沼 末男 先生
(平成15年4月～平成20年3月)



22代
山田 かほる 先生
(平成20年4月～平成23年3月)



23代
山本 益弘 先生
(平成23年4月～平成26年3月)



24代
下鶴 志美 先生
(平成26年4月～平成28年3月)



25代
池谷 昭広 先生
(平成28年4月～平成31年3月)



26代
池谷 智晴 先生
(平成31年4月～)



県居小学校 歴代PTA会長

初代	川島 浦治 氏	昭和22年度
2代	川合小四郎 氏	昭和23年度～昭和24年度
3代	飯嶋 政次 氏	昭和25年度～昭和29年度
4代	大石 覚 氏	昭和30年度～昭和34年度
5代	立石 健 氏	昭和35年度
6代	中谷 泰一 氏	昭和36年度～昭和39年度
7代	片岡 七郎 氏	昭和40年度
8代	神村 信二 氏	昭和41年度～昭和42年度
9代	川上 一男 氏	昭和43年度～昭和44年度
10代	橋本 辰二 氏	昭和45年度～昭和47年度
11代	川合 猛 氏	昭和48年度～昭和49年度
12代	吉澤 正道 氏	昭和50年度～昭和53年度
13代	左右田文夫 氏	昭和54年度～昭和55年度
14代	川島 順三 氏	昭和56年度～昭和58年度
15代	竹内 陽堂 氏	昭和59年度～昭和61年度
16代	伊藤 孝 氏	昭和62年度
17代	高塚 明 氏	昭和63年度
18代	立石 光雄 氏	平成元年度～平成2年度
19代	高林久仁夫 氏	平成3年度～平成4年度
20代	牧田 龍司 氏	平成5年度～平成6年度
21代	鈴木 博久 氏	平成7年度～平成8年度
22代	川上 浩好 氏	平成9年度～平成10年度
23代	吉澤 俊道 氏	平成11年度～平成12年度
24代	小宮山佳明 氏	平成13年度～平成15年度
25代	天野 啓介 氏	平成16年度～平成17年度
26代	木下 忠義 氏	平成18年度～平成21年度
27代	山田 勝夫 氏	平成22年度～平成25年度
28代	竹内 隆介 氏	平成26年度～平成27年度
29代	堀 由司 氏	平成28年度～平成30年度
30代	本多 正明 氏	平成31年度～令和2年度



第12代校長 河村 初友
(昭和54年4月～昭和58年3月在任)

創立百周年に寄せて

創立百周年おめでとうございます。記念誌への掲載ありがたく光栄に存じます。

県居読本!! 小生が中学校一年生の時、県居小学校卒業生のO君が「県居小には県居読本がある」と言って、この本を持参した。強い印象を受けた。戦後の混乱で姿を消した県居読本を再版したいと考え、この願いを職員に諮った。全員の賛同を得て、出版することができた。創立六十年の年であった。

学び続ける心!! 県居翁のお言葉に「今、七十にしてよろずを得たるが如し」とある。「生涯学習」を教育目標として努力した。

生誕地記念碑!! 浜松市制八十周年を記念して生誕地が整備された。地元市議土屋先生や皆様方の努力のたまものである。

合科的学習!! 現在の「総合的な学習の時間」の先駆けである。文部省では、この学習を進めるため教育現場に期待していた。県居小学校では先導的にこの学習を進めた。

今後とも学校の発展をお祈りします。



第15代校長 小池 恒夫
(昭和62年4月～平成元年3月在任)

随想

県居小学校創立100周年おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

私が着任した頃の県居小学校は各学級30名ほどの2クラスというこじんまりした学校でした。学区は歴史文化の宝庫で、国学者賀茂真淵翁の生誕地です。こんな事情を踏まえ、まず3階に郷土資料室を設けました。そして各種の関係資料の整理をし、展示に時間をかけた毎日でした。

62年の9月にはハンガリー・ブダペスト少年少女合唱団の訪問がありました。ぜひ一声聞かせてとあちこちから要望が寄せられました。もてた合唱団でした。

言葉のやりとりはありませんが!!天使の歌声!!と言われるだけあって、その美声に子供たちの目は輝きました。

こんな経験をいっぱい用意される県居の子供たちは幸せだと思いました。





第17代校長 中津川 昌義

(平成4年4月～平成6年3月在任)

思い出

県居小学校創立100周年おめでとうございます。県居小の児童、先生方は素直で親切な人たちばかりでした。教員生活で初めての小学校、大きな期待と不安がいっぱいの県居小勤務でした。最初の出会いは新1年生の入学式でした。元気よく入場し椅子に座って間もなく脚をぶらぶら動かす仕草で、大変驚いたことを思い出します。(新1年生にとっては椅子が高くて、足の裏が床につかなかったのだ)

5月の中頃、子供たちの様子を見ようと昼休みに運動場に出てみました。しばらくすると子供たちが近寄ってきて、一緒に遊ぼうと鬼ごっこの仲間に誘ってくれました。また、雨降りの昼休みには子供たちが校長室に来て、両親のことなどを話してくれ、素直で純粋な子供たちだなと思いました。

先生方からは、常に素直なご意見をいただきました。小学校教育に無知なわたしには、楽しく充実した2年間でありました。ありがとうございました。



第18代校長 綿本 達生

(平成6年4月～平成9年3月在任)

— 創立百周年記念誌に寄せて —

今から20数年前のPTA広報誌「県居」を読み返しなが記します。

♪ハァー虹でネ 虹で彩る五月の空にヨ～♪

少し昔の風揚げ音頭です。着任した頃、各自治会長様より校区八町の祭り風を寄贈され、郷土資料室に展示。「生き生き県居っ子」を目指す本校児童に誇りと元気(活力)を与えていただきました。

一年生と机を並べての招待給食…六年生の歌う「朧月夜」と、リコーダーで演奏した「エーデルワイス」の響きに目頭を押さえる姿…校区の寿大学の皆様との心温まる交流会が印象的でした。

♪県居の翁の御名を学び舎に～♪

外国のお客様3人を招待して〈ハロー集会〉で、心を込めて歌った校歌。校歌を歌うと母校に誇りと向上心・信頼感の自覚が高まります。

先輩達が築き守り続けてきた伝統に、地域や実態に即し、新しく創造を加えた「県居教育」推進に精一杯努め、充実した日々でした。改めて、PTA・地域・学校関係の皆様のご支援に感謝し、創立百周年をお祝い申し上げます。



第19代校長 大石 文昭
(平成9年4月～平成12年3月在任)

五七五の教育

当時は「生きる力の育成」が教育の命題でした。「総合的な学習の時間」に向けての試行。県居小は山間地の犬居小、海辺の新居小と合意し「三居（さんい）サミット」を結成。1年間の学習成果を披露し合いました。

また、実に見事に全校で賀茂真淵作の朗誦をしておりました。これを「生きる力」に結びつけるには、自らの力で「五七五七七」を創り出し、それを自ら吟じることだと考え、和歌作りに取り組みました。

折りしも宇宙飛行船スペースシャトルから向井千秋さんが上の句を投げ掛けられ、全校で応募したのがきっかけでNHKの全国版「クローズアップ現代」に取り上げられました。これは浜松市にとって滅多にないことだとして「特別表彰」を受けることになりました。全校児童、職員、地域保護者の皆様と喜び合ったことを鮮明に思い出します。

今なお、県居っ子の日常に五七五が息づいていることはこの上ない喜びであり、続けてこられた皆様に厚くお礼申し上げます。



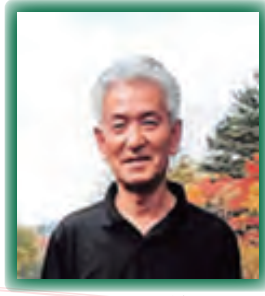
第20代校長 齋藤 和子
(平成12年4月～平成15年3月在任)

忘れられない思い出

創立百周年、誠におめでとうございます。

二千年の春、桜の花が咲き誇る正門をくぐり、玄関で賀茂真淵翁の像を拝見した時の事は、今なお鮮明に覚えています。明るく、心優しい子供たちは友達と力を合わせ、常に勉強や運動に一生懸命でした。

忘れられないのは、鹿谷町の「お茶室、松韻亭」へ出掛けて行った時のことです。緑豊かな美しい庭園を鑑賞した後、広間に入りました。地域の内田先生の御指導とPTAのお母様方のお力添えで、お抹茶と和菓子をいただきました。「畳にほおずりする子」「真剣な表情で茶道具を見つめる子」「震える手で茶わんを持つ子」「初めていただいたお抹茶の味に満面の笑みを浮かべる子」どの子の顔もキラキラと輝いていました。この松韻亭での本物に触れた感動体験は、私にとっても大変貴重なものとなりました。そして、日本の文化の伝統を学んだり、和歌づくりに生かしたりするすばらしい機会となりました。



第21代校長 菅沼 末男
(平成15年4月～平成20年3月在任)

研究発表会の思い出

平成19年2月6日、真冬の時期なのにその日は、寒くありませんでした。心が1点に集中していたからでしょうか。
県居小16年ぶりの研究発表会の日でした。2年間の国語科授業の成果を問う「国語科研究発表会」国語科授業と、もう一つの柱「きらめき集会」（児童の自作の和歌の発表）の公開です。授業の充実のため、また、この日のためにと研修を積み重ねてきました。保護者や地域の皆様には、会場の準備や当日の受付、駐車場の案内をしていただきました。本当に有難く思いました。
「聞く態度が素晴らしく、1つの意見から付け足し、賛成の意見へと広がっていく姿がすごいと思いました」等、発表会は、私の期待通りの授業が展開されました。発表会を通して授業に対する意識、子供たちの学びがよい方向に伸びていったことを感じました。



第22代校長 山田 かほる
(平成20年4月～平成23年3月在任)

県居の心

県居小の朝は、清々しい子供たちの朗誦で始まりました。休み時間には、子供たちの朗誦を聴き、暗唱できた子には合格証を渡しました。励みになったようで、校長室にはいつも子供たちの朗誦の音が響いていました。今も心のふるさとに真淵翁の和歌があり、つらいとき苦しいときに温め、支えてくれることと思います。
「3、2、1、ハイ、ハイ、ハイ…」昼休みの体育館には長縄「8の字」跳びの練習に取り組む子供たちと教職員の姿がありました。熱気と一体感にあふれていました。息が合わなくて跳べない、足の裏の皮が擦りむける…。笑いあり涙あり、繰り返し繰り返し練習する中で、互いの信頼感が育まれていました。県の体力アップコンテストの優勝や、NHKの番組で全国一位になるなどの素晴らしい成績を収めました。かけがえのないとき、その教育的瞬間に立ち会えた喜び。教職員も、「たかが縄跳び、されど縄跳び」と言い合いながら子供たちと燃えました。
「県居の心」が知・徳・体、それぞれに学校の特色となる活動となり、子供の具体的な姿として体現できるように努めました。温かな地域や保護者に支えていただき、充実した3年間を過ごすことができました。



第23代校長 山本 益弘

(平成23年4月～平成26年3月在任)

伝統の重みと県居魂の輝き

県居小学校での最大の思い出と言え、毎日ポッポ道を散歩するという地域の方との会話と、子供たちの朗誦の声です。「校庭を走る子供たちの姿を見て、朗誦の声を聞くと、今日も一日頑張ろうという元気が湧くのです。」とおっしゃられた地域の方のお話から、伝統の重みを感じました。

また、東京のNHK放送センターで行われた「なわとびかっとなび王選手権」。その本番前に、円陣を組み、子供たちが心を一つにして朗誦した「飛驒たくみ ほめてつくれる真木柱 たてし心は動かざらまし」の声。平常心に戻った子供たちの活躍と、ノーマスでの新記録。まさに、県居魂の輝きを見るようでした。

大きな感動を与えてくれた県居小学校と子供たち、その活動を支えてくださった保護者と地域の皆様に感謝しています。県居小学校の今後益々の発展を願ってやみません。



第24代校長 下鶴 志美

(平成26年4月～平成28年3月在任)

今、時の扉を越えて

「県居の 茅生の露原 かきわけて 月見に来つる みやこ人かも」

休み時間になると子供たちが校長室に訪れ、和歌の朗誦を披露してくれました。その堂々とした声・真剣な眼差しに、地域の誇りとしている偉人『賀茂真淵』が県居教育の中核として確実に根付いていることに感動したことを覚えています。季節ごとの和歌の朗誦は、今でも私の心の中に、心地よい響きとなって、しっかりと残されています。

地域の方々・保護者の方々に支えられ、学校教育だけでなく、「故郷を愛し、故郷で学び故郷を学ぶ」ことを主軸に据え、地域とともに歩む学校づくりを目指したところ、「静岡新聞社・ふるさと貢献賞」を受賞できたことも、喜ばしい一つの思い出となっています。

この歴史と伝統が脈打つ県居小学校に勤務できたことの幸せを、歳月の経過と共に、強く感じる昨今です。今後も、「時の扉」を越えて受け継がれる「県居の心」を大切に、益々発展されることを心より祈念いたします。



第25代校長 池谷 昭広

(平成28年4月～平成31年3月在任)

かけがえのない県居小での時間

県居小学校創立百周年おめでとうございます。私は、教諭として七年、校長として三年、合わせて十年間勤務しました。その間、県居小のもつ温かで優しい校風は変わることなく受け継がれていました。どこか控えめで、奥ゆかしく、それでいてひたすらに努力する子供たちの姿は、校区に生家のある、そして校名に縁の深い郷土の偉人賀茂真淵翁の幼少期の姿につながっているのではないかと内心想っています。

私の三十八年間という長い教員生活。その中の県居小学校に勤務した十年間での子供たちや保護者、地域の皆様と過ごした時間はかけがえのないものとなりました。校舎は平成二十八年の大規模改修工事によって新しくなりましたが、県居小学校の輝かしい伝統や校風はこれからも変わることなく永遠に続いていくものと思います。そして、これからもずっと地域の皆様から愛される自慢の学校であってほしいと願っています。





県居小学校の歴史

開校から終戦

県居小学校は大正9年に開校しました

県居小学校は、大正8年6月25日設置認可、翌9年3月8日濱松縣居尋常小學校の校名認可、大正9年4月1日開校しました。

浜松では元城小学校が一番初めにでき、次いで南小、西小、東小と順次開校しました。県居小学校は南小学校の生徒が増えたため分離しました。市の中心部の子供と田舎（東西伊場・森田）の子供が混じった珍しい生徒構成でした。

大正10年(1921年) 最新実測浜松市全図



浜松市図書館:贈

－ 戦争中の生活 －

学校生活

- ・中庭の黒板には「欲しがりません、勝つまでは」と書かれていた。
- ・体操の時間には、なぎなたをよくやった。お国に役立つと真剣でした。
- ・体育は騎馬戦など荒々しくなった。
- ・校門の左に小使室があり、その隣の部屋で毎日、お弁当を温めてくれた。
- ・「大詔奉戴日*」の弁当の副食は、梅干し1個と決められて、「日の丸弁当」と言い、別に副食がついていると叱られた。
- ・運動場の1部はサツマイモ畑となった。
- ・戦後の分散教室での弁当は、ほとんどサツマイモでわずかに西伊場町の子が米の弁当を持参していた。時々、食べられちゃった、という話もあった。
- ・食糧事情もだんだん悪くなり、ごはんは大豆や高粱(モロコシ)の混ざったものとなった。
- ・体づくりに太陽灯*を浴びた。
- ・肝油*、虫下し*を学校で飲んだ。
- ・算数と国語の授業が限定的にあり、国語の読本を先生の指示で墨汁で塗りつぶしてゆく作業が印象に残っている。
- ・戦争が激しくなると国民学校も軍事色が濃くなり、登校も隣保10人くらいの単位で隊列を組んで登校した。
- ・毎朝グラウンドに整列して、全体朝礼が開催された。
- ・防火班の活躍は目覚ましかった。6年男女もこれに参加した。
- ・退避訓練に伴い、窓の開閉、カーテンの利用、机、腰掛の集結、用水の満水が児童の任務となった。
- ・突如地震の天災を被ったその打撃は、また甚大であったが直ちに復旧に取り掛かり雨もりの校舎の中で作業と訓練が続けられた。

たいしょうほうたいび

*大詔奉戴日・・・戦争するとの大詔(勅語・天皇のお言葉)が発表され、毎月8日は「大詔奉戴日」となった。節約し勤めに励む日とされた。また、神社に行き戦地の兵隊の武運を祈る行事も行われた。

ちよくご

*太陽灯・・・紫外線と赤外線が出る装置を児童の輪の中心に置いて、上半身裸になりゴーグルを付ける。
*肝油・・・サメなどの肝臓に含まれる液体、及びそれから抽出した脂肪分。ビタミンA、ビタミンD、スクワレン、脂肪酸。太平洋戦争(1941)後、学校給食などの栄養補助として用いられた。

*虫下し・・・駆虫薬は寄生虫を殺すか体外に排出するために用いられる薬。

ほうあんてん

奉安殿

- ・正門を入ると右側の木立の奥に奉安殿があり、その前に二宮金次郎の銅像があり頭を深く下げて通った。
- ・四大節には、奉安殿より出された教育勅語が、白手袋の校長先生によって厳かに読み上げられた。その式の後で紅白のまんじゅうを低学年の頃はもらった。

*奉安殿・・・「教育勅語と天皇・皇后の御真影(写真)」を最も丁寧に奉置するため、各学校に設けられた耐震耐火の堅固な建物。

身につけるもの

- ・唯一の既制服は県居校の制服だったと思うセーラーの上着だけで、それも儀式用で常には着られませんでした。
- ・肌着から上着、モンペまで、母親の手製にも工夫がありました。普段着のモンペはゴムひもを通すだけでしたが、お出かけ用は足首にはカフスをつけスナップでとめてふんわりとし、胴回りはしゃれた紐で結んでありました。
- ・服装検査を時々行った。防空頭巾の用意、モンペの着用、巻脚絆、救急袋の用意。

空襲・罹災^{りさい}

- ・授業中、警戒警報の不気味なサイレン。大急ぎで家へ走って帰った。
- ・6年生は地区の子をまとめる役割があった。警戒警報が解除になると学校に戻る。日に2度往復する日が少なくなかった。
- ・空襲警報。いやだ。いやだ。こんなのいやだ。防空壕の中でひたすら祈る。早くのびのび勉強したい。眠りたい。遊びたい。おなか一杯白いご飯を食べたい。
- ・幼稚園との境に平均台やロクボク(遊具)があり、その西側に防空壕が掘られていた。低く敵機が飛ぶ時、その中で身を縮めていた。
- ・艦載機の突然の来襲の時には、家までのわずか200mが本当に長かった。
- ・空襲警報が発令され、避難指示が出されて自宅へ一目散に向かって…途中賀茂神社の共同防空壕に飛び込んだ。自己責任の行動で、自宅へたどり着くまで親とも連絡の取りようのない時代であった。

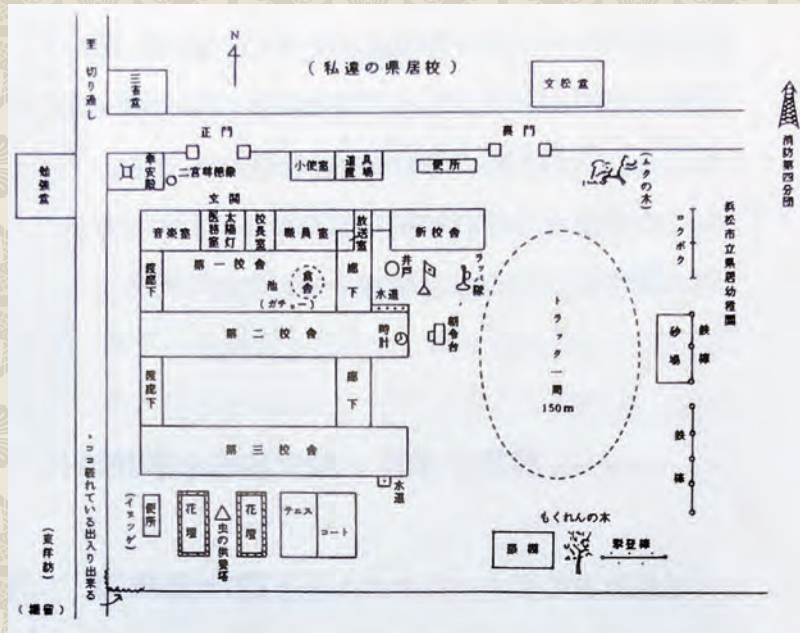
その他

- ・賀茂神社で出征兵士を送った。暗闇だった。裸電球のもと、我々と十歳と変わらない若い兵隊さんが立派に挨拶、敬礼をされた。万歳三唱、出征兵士を送る歌が神社の森に広がった。
- ・当時西伊場も学区で長島街道の入り口まで2キロあって、当時は牛や馬も通っていた。
- ・雄踏街道は東洋紡績の排水が豊かでとてもきれい。
近くの人々の生活の一部だったし、我々は笹舟を競い合った。
- ・県居校といえば、賀茂真淵翁。我々は愛国百人一首を懸命に学んだ。

「大御田の みなわもひち(じ)も かきたれて とるや早苗は わか(が)君のため」を真っ先に覚えた。

- ・県居神社に昭和8年12月に顕彰碑が除幕された時は県居校の校名がすごく誇らしい気持ちだった。
例大祭の10月30日には6年生が参列して代表が玉串拝礼した。
- ・校舎が焼けて他の学校区の子どもたちとの出会いが新鮮だった。特に登下校の往復は個々人が勝手に獣道みたいに自分の抜け道を発見したり、焼跡あり、山・森ありで楽しかった。
- ・よその人が山の傾斜地に横穴を掘って造った個人防空壕の上を歩いた時、屋根が抜けて、何が起きたのかしばらく茫然とした。「あ～、生きてる」と感じた記憶がいままだ鮮明です。
- ・小バケツに4～5mの竹棒が取り付けられたもので、近所で共同の井戸の中の水をくみ上げて、自宅の台所の水瓶まで運ぶのが苦手だった。水汲みは子どもの仕事と自らに言い聞かせて頑張った。

戦前の校舎図



昭和12年末～19年末 児童数・学級数・職員数

年 度	学 級 数	児 童 数	職 員 数	備 考
昭和12	24	1541	28	
昭和13	24	1535	28	
昭和14	24	1540	28	
昭和15	25	1570	30	
昭和16	25	1575	30	
昭和17	26	1605	31	
昭和18	26	1623	31	
昭和19	27	1592	32	20年1月以降 疎開する者次第に生ず。

昭和20年8月15日 終戦当時の児童数・学級数・職員数

学 年	初1	初2	初3	初4	初5	初6	計
学級数	1	1	1	2	2	2	9
児童数男	36	25	39	45	41	53	239
女	33	36	33	31	45	49	227
計	69	61	72	76	86	102	466

昭和21年8月15日 1年後の児童数・学級数・職員数

学 年	初1	初2	初3	初4	初5	初6	計
学級数	2	2	2	3	2	3	14
児童数男	55	58	57	79	66	60	375
女	62	36	68	61	59	75	361
計	117	94	125	140	125	135	736

校舎焼失により学校の場所が変わりました

昭和20年6月18日の浜松大空襲で濱松縣居國民學校(県居小学校)の校舎は全焼失しました。

昭和22年1月に濱松縣居國民學校敷地に5教室の仮校舎が建ちました。その校舎には新しくできた西部中学校の生徒が分散教育で通いました。県居児童は現在の西小学校に建てられた、鴨江校舎に通いました。

西小学校も校舎が全焼失し、廃校となり、鴨江小学校と合併しました。

昭和28年4月1日東伊場88番地の8に校舎新設認可が下りました。

- ・罹災当日の早朝、西遠地方事務所及び浜松市役所に奉安殿は御安泰であった。
- ・大空襲で自宅が焼失してから、すぐに母方の親戚のいる新潟県に疎開し、地元小学校に転校。8月末に浜松に帰り、県居小学校に戻った。
- ・県居校の裏門近くの防空壕のなかで朝まで息をつめて祈っておりました。
- ・大空襲の夜、焼夷弾の降る中、賀茂神社をめがけて、寝間着のまま洋服をかかえて走りました。一夜明けたら、あたりは炎がくすぶっていて、松菱デパートの焼けた姿が見通せました。

授業について

- ・罹災により約2週間の臨時休校の措置を行った。
- ・7月3日、罹災後最初の児童召集を行ったが、ほとんどの生徒が疎開しており、集まったのは320名余りだった。
- ・教科書もなし雨具もなし、防空壕に生活する者が多数いた。
- ・母校の焼跡の片付けの日々で、何を学んだかの記憶もほとんどない。あわただしい印象が残っている。

戦災児童及び職員について

- ・罹災直後殆ど各方面との連絡が絶え状況が不明となったので職員を学区内に派し戦災児童の調査を行い、名簿を作成した。
- ・疎開児童は罹災後急激に増加した。係職員を増加し手続きを簡易にした。疎開児童名簿を備えた。
- ・罹災直後、校地の焼跡を職員共同作業で整理し、焼け残りの木片トタン釘などを集め、バラックを急設した。机二脚をようやく用意しここを急設学校本部として上司との連絡、校務の統一などをはかった。この本部を死守する職員の努力は並々ならぬものがあった。
- ・10月5日に振興会の寄付により竣工したバラックに移転した。

校地の焼跡整理について

- ・授業再開のため全職員協力して校庭を中心として清掃作業を至急行った。授業開始後は職員児童協力して焼跡の整理をした。
- ・女子は2人で「いしみ」(竹かご)を持ち、男子がスコップですくって入れ、運動場の片隅に積んだ。

分散教育について

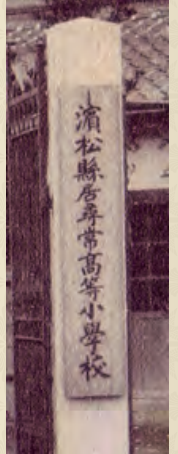
- ・7月3日より授業を再開した。空襲を考慮し全児童を4編成にして、分散教育を行った。
東伊場班 → 賀茂神社
西伊場班 → 鴨江国民学校
森田班 → 大山肥料店倉庫
その他の各町児童班(学校班) → 大蔵寺
- ・空襲頻発下、不完全な臨時教室に教科書も教具もなく勉学にいそしむ姿は真に悲壮なるものがあった。雨が降れば雨具のない児童の欠席が続出する次第であった。
- ・8月15日の終戦を迎え、2学期に入ると追々疎開先より戻る児童もあり空襲の心配もなくなり、稍(やや)整備してきたので複式編成を学年別とし10月15日より実施することにした。そのあと分散教室については多少の異動もあったが、鴨江国民学校に6、5、4年、大蔵寺に3年、賀茂神社に2、1年を収容していた。

【資料・参考】
ネット:西部中歴史
本:浜松市戦災資料史
冊子:西小学校100周年記念誌
県居小学校90周年記念誌
文書:ひとことで綴る縣居校の思い出
アンケート

県居小学校 年表

年月日	西暦	県居小学校と世の中の出来事
大正		
7年11月11日	1918	—第一次世界大戦 終戦 (1914～1918)—
8年 6月25日	1919	設置認可 浜松市東伊場 88 番地の 8
9年 3月 8日	1920	校名認可
4月 1日		「濱松縣居尋常小學校」として開校
		学区：塩町、菅原、平田、成子、西伊場、旅籠、東伊場 元魚、森田
11年 4月 1日	1922	高等科併置 「濱松縣居尋常高等小學校」と改称
		 大正13年(1924年)  大正年間建設中の校舎
昭和		
2年 3月	1927	第 3 校舎焼失
		 昭和2年(1927年)  昭和3年3月(1928年)
		  昭和4年(1929年)  昭和5年3月(1930年)

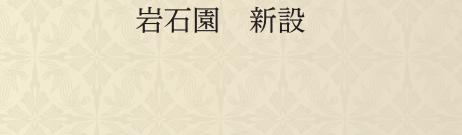
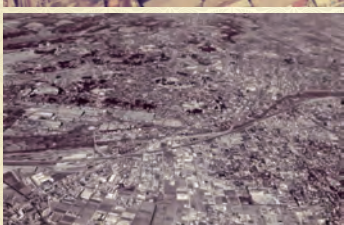
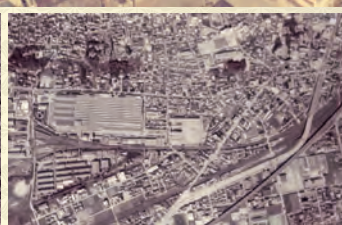
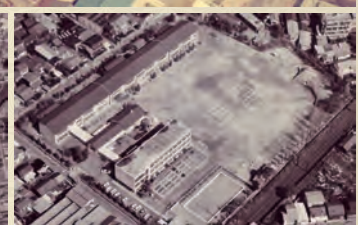
濱松縣居尋常高等小學校の看板



年月日	西暦	県居小学校と世の中の出来事
昭和 6年 3月31日	1931	高等科が廃止 「濱松縣居尋常小學校」と改称 — 関東大震災 (1923.9.1) — — 世界恐慌 (1929) — 奉安殿 二宮尊徳の立像 正門 校庭にて人文字 空撮 昭和9年(1934年)
11年10月15日	1936	「県居読本」初版発行 — 第二次世界大戦 勃発 (1939) — 昭和13年頃(1938年) 浜松駅周辺 昭和11年度 初版
16年 4月 1日	1941	「濱松縣居國民學校」と改称
19年12月 7日	1944	地震発生 校舎に被害 (屋根瓦脱落・壁の亀裂・柱の破損)
20年 6月18日	1945	空襲で全校舎焼失 児童 12 人死亡 分散教育を行う (森田班 西伊場班 東伊場班 本校班) — 第二次世界大戦 終戦 (1945) —
22年 1月	1947	仮北校舎 落成 初 1 ～ 初 5 まで 2 部構成で授業 (初 6 児童は 1 年間鴨江校舎で分散教育) 「濱松市立縣居小學校」 (浜松市立県居小学校) と改称 新校舎 (旧兵舎移転改修) 西小学校跡地 (鴨江町 70 番地の 1) に一時的に移動 学区: 鴨江東、栄、塩町、菅原、中山、平田、成子、旅籠、東伊場 三組、元魚 東伊場の校舎は西部中学校が使用
4月 1日		
6月28日		
		昭和23年頃(1948年) 鴨江校舎

年月日	西暦	県居小学校と世の中の出来事
昭和		
24年10月 1日	1949	北校舎 6 教室 落成
26年 1月19日	1951	給食調理室 落成
10月20日		北校舎 2 教室、応接室、渡り廊下 落成
28年 4月 1日	1953	東伊場 88 番地の 8 に校舎新設認可
10月26日		9 教室、図書室等 落成 学区：塩町、菅原、平田 成子、旅籠 東伊場、元魚
		
29年 9月 1日	1954	8 教室 落成 (全児童が今の校地に戻る)
		昭和28年頃(1953年) 校舎
		昭和30年(1955年)
		
		運動会
		
		
		校舎
		
		
		授業風景
		
		校舎内
		
		正門
		
		空撮

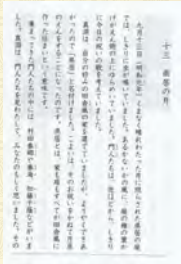
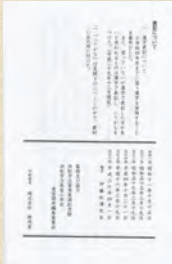
年月日	西暦	県居小学校と世の中の出来事
昭和 32年10月 7日 34年	1957	昭和29年(1954年)    成子坂(交差点付近) 浜松座通北口(モール街) 平田(開かずの踏切) 昭和31年(1956年)  校庭と校舎    庄内海岸での水泳 4 教室、職員室等 落成 昭和33年(1958年)   
		校章が新しくなる プール 落成      
		 
		創立 40 周年記念式典举行
35年11月27日	1960	

年月日	西暦	県居小学校と世の中の出来事	
昭和			
37年10月10日	1962	理科室、準備室、図書館、給食室 設置	
11月20日		玄関前の築山 落成	
39年	1964	遊具「五輪の山」設置 ー東京オリンピック開催ー	
2月25日		オルガン教室完備	
40年 3月10日	1965	岩石園 新設	
41年 3月10日	1966	校歌、県居の心 完成	
42年 2月13日	1967	賀茂真淵翁座像 落成	
		校歌(銅板)と県居の心(石碑)完成	
		 	
		賀茂真淵翁座像落成式	昭和45年11月14日(1970年) 健康優良学校児童表彰式
43年 3月 8日	1968	県居の泉 完成	 
4月 1日		特殊学級設置 (現在の発達支援学級)	
44年 3月 8日	1969	県居のひびき 落成	 
11月 7日		創立 50 周年記念行事	
		昭和47年10月5日(1972年) 航空写真	
			
		  	

年月日	西暦	県居小学校と世の中の出来事
昭和 53年 2月17日	1978	昭和52年(1977年) 体育館建設 体育館 落成 体育館落成式
		旧北校舎解体 北校舎建設
		北校舎 新築 プールの浄化装置がついた 創立 60 周年記念行事 北校舎完成
54年 3月26日 54年	1979	

年月日	西暦	県居小学校と世の中の出来事																				
昭和 58年 2月23日 9月20日	1983	どろんこ広場新設 (はだしの教育) 校章贈呈  校章贈呈式  校章取り付け作業																				
62年 9月14日	1987	ブタペスト (ハンガリー) 少年少女合唱団との交流 <table border="1"><tr><td>活動名</td><td>ハンガリー少年少女合唱団との交流会</td></tr><tr><td>日時</td><td>九月十四日(月)</td></tr><tr><td>場所</td><td>体育館</td></tr><tr><td>担当</td><td>昭和六十二年度前期児童会</td></tr><tr><td>計画</td><td>活動のハンガリーの人たちとなかよくろう。</td></tr><tr><td>めあて</td><td></td></tr></table> プログラム 一、入場(県居音頭) ※歌いながら拍手 二、対面のあいさつ 三、はじめの言葉(池谷愛衣) 四、校長先生のお話 五、お迎えの言葉(水野多華) 六、花束贈呈(二年生) 拍手 七、全体合唱『歌えパンパン』 伊賀先生 五年 八、合唱団の歌 拍手 九、合唱団お別れの言葉 十、おわりの言葉(池谷) 十一、退場(校歌) ※歌いながら拍手 <table><tr><td>役目</td><td>担当者</td></tr><tr><td>司会</td><td>石原</td></tr><tr><td>中司</td><td>森育藤</td></tr><tr><td>マイク</td><td>柿原</td></tr></table>  ブダペスト少年少女合唱団 	活動名	ハンガリー少年少女合唱団との交流会	日時	九月十四日(月)	場所	体育館	担当	昭和六十二年度前期児童会	計画	活動のハンガリーの人たちとなかよくろう。	めあて		役目	担当者	司会	石原	中司	森育藤	マイク	柿原
活動名	ハンガリー少年少女合唱団との交流会																					
日時	九月十四日(月)																					
場所	体育館																					
担当	昭和六十二年度前期児童会																					
計画	活動のハンガリーの人たちとなかよくろう。																					
めあて																						
役目	担当者																					
司会	石原																					
中司	森育藤																					
マイク	柿原																					

年月日	西暦	県居小学校と世の中の出来事
平成 元年	1989	新プール完成 創立 70 周年記念行事
7年 9月	1995	郷土資料室整備
11年11月11日	1999	創立 80 周年記念行事
16年 3月19日	2004	「県居読本」改訂版発行
17年 7月27日	2005	北校舎内部塗装工事
		 
20年 9月30日	2008	南校舎耐震強化工事
		 
21年	2009	創立 90 周年記念行事
21年11月22日		「中日教育賞」を受賞 (朗読の活動)
23年 3月11日	2011	全国学校体育研究優良校受賞 ー東日本大震災ー
24年10月25日	2012	プレハブ校舎設置 (校舎大規模改修のため)
27年	2015	北校舎大規模改修工事完成
		

年月日	西暦	県居小学校と世の中の出来事
平成 28年 1月29日	2016	南校舎大規模改修工事完成  
7月29日 30年 4月 1日	2018	「県居読本 平成 28 年度版」改訂版発行 ー平成天皇生前退位により「令和」にー 「県居読本 平成 30 年度版」改訂版発行      平成30年度 改訂6版
令和 元年 2年 6月	2019 2020	ーコロナウイルス世界的大流行ー ーコロナのため全国の学校が 2 ヶ月休校ー 五輪の山改修工事  
2年 7月		エアコン設置
2年 9月26日 2年11月14日		ー東京オリンピック延期ー 県居小学校 100 周年記念碑 除幕式 県居小学校 100 周年記念行事 (予定)  県居小学校 100 周年記念碑建設



県居小学校卒業生 中西 美沙子

「思いをたどって」

我が家は、県居小学校の前にあります。いつも小学校から子どもたちの元気な声が聞こえ、私の朝はその声とともに始まります。季節の流れを、子どもたちの歓声や歌声が告げることもあります。春は華やぎ。夏は命の輝き。秋は静けさ。冬は透明な世界。それぞれの季節の声を聞きながら、私は朝食を整え、娘たちを送り出し、自分も仕事に行きました。風邪などで臥せている時は、子どもたちの声が聞こえてくると、自然に元気になりました。

県居小の前のこの住まいで私は成長し、家族を作ってきました。二人の娘たちも県居小に通いやがて嫁ぎ、そして両親を見送った今も、夫と二人でここに住んでいます。長い時間が経ったものです。

私が県居小に通っていたのは、高度成長が始まった頃。日本全体に活気があり、人々は生気に満ちていました。スーパーやコンビニもない時代です。近所には八百屋、肉屋、下駄屋、布団屋、酒屋、魚屋などがあり、子どもたちは駄菓子屋に行くのがたのしみでした。八百屋さんのおじさんが大きな声で言います。「大根、大負けー!」「今日はいいごぼうがあるよ」。母について行く店先には、近所の顔見知りの人たちがいました。響く笑い声やざわめき。人との関係が濃密にあった時代です。生活にはさまざまな色や匂いがありました。

小学校で、どんな勉強をしたのか、よく思い出せません。が、遊びに夢中だったことは確かです。大きい子も小さい子も一緒になって、放課後の校庭や空き地で、暗くなるまで遊びました。石けり、ゴムとび、かくれんぼ。私が県居小にいた頃。おおらかな時間の中で、人との絆や生き方を育んでいた気がします。だれもが元気でした。校庭の向こうから電車の走る音が聞こえ、夜には海鳴りが聞こえました。校庭の隅の日時計。学級花壇のひまわりや日日草。せんだんの木で蝉が鳴いている。そんな中で私が感じたのは、大きな世界の中で今自分が生きていて、そしてここにゆったりと「許されて在る」という安心感だったのでしょう。

県居小学校が100周年を迎えるそうです。同窓とは、時を隔てても、同じ空気や気分の中で育んだものを共有できる仲間。今も私の耳元には、友の明るいざわめきが残っているのです。「どこまで行ったの?」「どこまで行くの?」という希望の声。

五輪の山

遊具

遊具「五輪の山」はオリンピックに因んで設置されました

県居小学校の子供たちに人気の遊具「五輪の山」は
1964年の東京オリンピックの時に設置されました。

そして、令和2年県居小学校100周年に合わせて、リニューアルされました。
低学年向けの滑り台がつき、色を塗りなおし、「2020」の数字が追加されました。

- ・以前はバックネットの所にも五輪マークがあった。
- ・当時自衛隊機ブルーインパルスが五輪マークを描く練習をしていた。
- ・各クラスにテレビが導入された。



改修前



改修後



昔の五輪の山



新しい五輪の山



運動会で使用されていた「五輪の山」

県居小学校の運動会では、オリンピックを彷彿とさせる聖火ランナーがありました。この聖火ランナーでは、五輪の山の頂上付近に聖火台を設置して、グラウンドから五輪の山まで走り抜け、聖火台に聖火を点火するというプログラムがありました。



県居のひびき

この鐘はいつ鳴らす？

昭和43年度の卒業記念に建てられました。

数年前までは朝会の時に鳴らしていましたが
昨今では、卒業式の日卒業生が卒業記念として鳴らしています。

その鐘の音色は、昔から変わらずきれいな音色で鳴り響きます。

使わない時は、取っ手をしまっています。

【資料・参考】
冊子:県居のひびき
広報あがたい
アンケート

賀茂真淵翁

時を超えて和歌を学ぶ

賀茂真淵と和歌を学んでいます

県居小学校では、江戸時代に活躍した国学者・歌人で地元出身の賀茂真淵の功績をたたえ、和歌を取り入れた活動に取り組んでいます。



- ・毎朝全校生徒で真淵の和歌を朗誦(約30年間)
- ・校長先生に暗唱した和歌を聞いてもらう
- ・和歌づくり
- ・公共施設に掲示
- ・行事などで発表



賀茂真淵はどんな人

年 号	西暦	年齢	出 来 事
元禄10年	1697	0	3月4日、遠江国敷智郡岡部郷(今の東伊場、灯籠坂の下)に生まれる 三四(そうし)と名付けられる
宝永 4年	1707	11	杉浦国頭の妻、雅子(後の真崎)について手習い(字を書く練習)を始める
享保 5年	1720	24	「賀茂御神にねぎたてまつる」の歌文をつくる
享保18年	1733	37	住居を京都に移して春満に学ぶ
元文元年	1736	40	浜松に帰省「旅のなぐさ」を書く
元文 2年	1737	41	国学をさかんにするために江戸に出る
延享 3年	1746	50	徳川吉宗の子ども、田安宗武につかえる
宝暦13年	1763	67	近畿地方に旅する、本居宣長に会い、手紙などで指導する
明和元年	1764	68	日本橋浜町の新居に移る「県居」と名付けた
明和 6年	1769	73	10月30日亡くなる

賀茂真淵のすごいところ

- ①『万葉集』を研究し、“国学”というわが国の人びとのもとからの心、考え方を知ろうとする学問を生み出した。
- ②歌人として、万葉風の和歌を1,000首ほどよんだ。
賀茂真淵集の研究という本には1140首載っている。
- ③教育者として、340名あまりの弟子を育てた。

初めて作った和歌は？

真淵が作った1140首の和歌の中で、一番若い時の歌として記録が残っているのは、雨ごいの祝詞(祝詞：神様に祈る文、「賀茂御神にねぎたてまつる」)にそえられた歌

夏茎の 色そう雨は つれなくて
待ちに日かずの ふるぞあやなき
めぐみある 露さへおかば をかのべの
小田にてる日に しをととも何
うきふしは なほ諸人も なお竹や
すなほなる代を 神にまかせむ

日照りを悲しみ、神に雨を願う歌文です。

“県居”とは”いなかの心”なり

明和元年(1764)真淵(68歳)は日本橋浜町の新居を「県居」と名付けた。

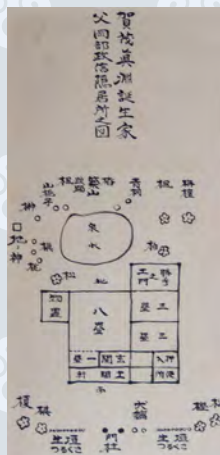
真淵はにぎやかな江戸の町中に身をおきながら、心は遠く“ふるさと浜松”のいなかによせ、古代の生活(もともとの日本人のくらし)をめざしていたのです。

また、遠いご先祖が『県主(あがたぬし)』という天皇の田を管理する役だったことも関係があると思います。

賀茂真淵の”和歌の心”とは？

和歌で大切なことは「教えこむこと」や「言葉をかざること」ではなく、「心に感じたこと(喜びや悲しみ)」をすなおにあらわすことである。

県居小学校は和歌の朗読により生徒の心が育てられています



長縄跳び

伝統ある県居小学校の長縄跳び

全国一位になりました

県居小学校は、NHKの主催する「なわとびかっとなび王選手権」にて
全国一位を3回獲得しました。

「なわとびかっとなび王選手権」へ参加する以前に、体力向上の一環として一年生の時から全学年が8の字跳びに取り組み、「体力アップコンテストしずおか」に参加するために熱心に練習していました。その練習風景のビデオテープをNHKに送ったことが「なわとびかっとなび王選手権」へ参加するきっかけとなりました。

なわとびかっとなび王選手権とは？

年 月 日	番 組 内 容
2008.4 - 2011.3	NHK 教育テレビ「ヒミツのちからんど」の中での「なわとびかっとなび王選手権」から始まる
2011.4 - 2012.3	「なわとびかっとなび王選手権」が独立した番組となり「スクールLive Show for KIDS」と改名
2012.4 -	「全日本なわとびかっとなび王選手権」に改名

ルール

ジャンパーが8の字を描きながら、1分間で次々と長なわを跳びぬけていき、
チームが跳んだ延べ人数を競い合う（8の字跳びタイムアタック）

ねらい

- ・真剣勝負に向かっていく中で育まれる「仲間との絆づくり」でお互いを認め合い、支え合い、高め合う心が育まれる
- ・たくさんの方々の前で目標を達成することによって、より大きな自己肯定感を持てるようになる

- ・全国から小学生のチームを募集して、なわとび日本一決定戦を開催
- ・2017年、教育的効果が認められ、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会より「東京2020公認教育プログラム」として認定された
- ・2020年、働き方改革推進の影響などで参加校が減り休止となっている





2010年10月31日 (平成22年)

優勝

1本目 495回 ノーミス 日本新記録
2本目 510回 ノーミス 日本新記録
合計 1005回 日本新記録

NHKふれあいホールにて収録
司会 ホリ
ゲスト 縄★レンジャー、ストレッチマン
田中 光 (オリンピック体操選手)

「本気・絆・県居魂」を込め日本一に
平成21年度の6年生がNHKに送ったビデオテープが縁で始まった「ヒミツのちからんど 8の字とびタイムアタック」にチャレンジし、見事日本一に輝きました。「本気・絆・県居魂」を込めた1分間、息をのみ願いを込めた1分間、「もう少し、あと10秒」「このまま集中…」と祈る、短い時間でしたが長い時間でもありました。そして、見事そろえたノーミス2本、合計1005回。全員が渾身の跳躍で、最後の最後まで集中を切らしませんでした。子どもたちが心一つに絆を深めながら一所懸命に練習を続けてきたことが、大きく実りました。この6年生たちを誇りに思います。大きな感動をありがとう。

平成22年5月、11月 県居のひびきより

2011年11月3日 (平成23年)

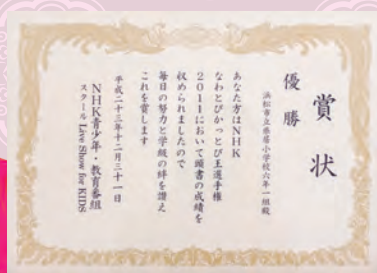
優勝

1本目 514人ノーミス
2本目 459人

NHK放送センターにて収録
司会 ホリ

ゲスト 縄★レンジャー、ハイキングウォーキング
2月6日に山本校長先生と北村先生、
生徒二人が教育長へ優勝の報告をしました

令和元年度の成人式で初代優勝校として取材を受け、
NHK BS4K 放映「全日本なわとびかっとなび王選手権2019」
番組内にてとりあげられた
この年が初代とされたのは「なわとびかっとなび王選手権」
として独立した番組になったためと考えられる



朗誦が生んだ日本一

本番前のノーミスはわずか1回。この確率では、本番でのノーミスは難しいと、だれもが不安を抱きました。そんな時、汗びっしょりの子どもたちを集めて、担任がかけた言葉は、「学校でいつもやっている朗誦をやろう。」円陣を組み、お互いの顔を見ながら朗誦する子どもたち。39人の朗々とした声の一つになり、NHK放送センターの廊下に響き渡り、子供たちの表情が確かに和らぎました。6年生の絆と努力、後輩や保護者の皆様の応援、そして先輩から受け継がれてきた伝統が生んだ日本一。昨年に続いて二連覇となりました。

平成23年11月 県居のひびきより

2012年11月3日 (平成24年)



2012年11月3日 (平成24年)

優勝

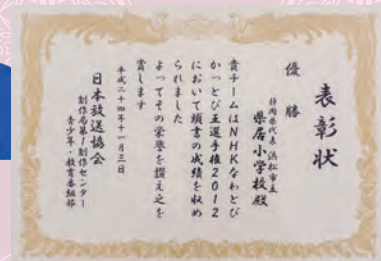
1本目 242人
2本目 426人

NHK放送センターにて収録

司会 関根勤

ゲスト 縄★レンジャー

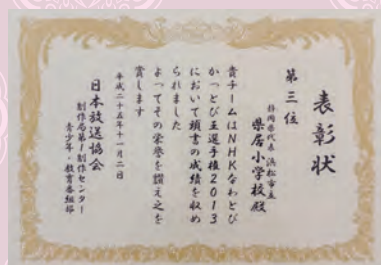
1月31日に山本校長先生と泉澤先生、
生徒二人が浜松市長へ優勝の報告をしました



県居魂で三連覇

「まだもう一本チャンスはある。県居魂でがんばるぞ。君たちならできる。いい顔で終わろうよ。」暗い顔で下を向く子どもたちに、担任の静かな声が心に届く。子どもたちは、この「なわとびかっとなび王選手権」で、日本一という栄冠を獲得すると共に、「仲間との絆」「努力」「あきらめない心」など、多くを学んだことと思う。何事にも大きな目標をもち、本気で取り組むところに賀茂真淵の教えを受けた県居教育の本質があるのではないだろうか。

平成25年1月 県居のひびきより



2013年11月2日 (平成25年)

3位

1本目 536人ノーマス
2本目 365人

NHK放送センターにて収録

司会 キャイ〜ン

ゲスト 縄★レンジャー

新記録を樹立するも第3位

4年連続出場、ディフェンディングチャンピオンとして臨んだ選手権。本番では、昨年度の優勝記録を更新するも残念ながら第3位。子どもたちの目には、大粒の涙、涙、涙…。先輩の背中を追い求め、一生懸命練習してきたこの1年。でも、この長なわ練習への取り組みを通して、大きな財産を得ることができました。それは仲間との絆、力を合わせることのすばらしさ…。力いっぱい頑張った6年生へ、県居小学校職員からメッセージを贈ります！

「夢を追い 努力し続けた その姿 みんなに伝えし 県居魂」

平成26年1月 県居のひびきより

2016年10月23日 (平成28年)

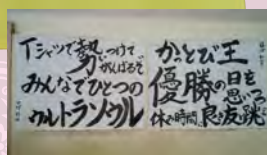
3位

1本目 385人
2本目 371人

各予選通過校(県居小学校)にて収録

司会 キャイ〜ン

ゲスト アニマル浜口 浜口京子
(リポーターとして来校)



最後の涙は努力の証拠

1つの目標に全員が全力で取り組み、最後まで諦めず頑張りました。

達成感を感じ、心を1つに団結して取り組むことができました。最後はみんな最高の声が出ていました。

浜口京子さんより「1回1回が魂のジャンプで私の胸に響いてきました。」

大切な思い出

「5、4、3、2、1。」

「やったあ。新記録。」

子どもたちの歓声が沸き起こり、同時に私たち保護者も立ち上がって喜び合いました。今でもその瞬間をはっきりと覚えています。

「かっとび王選手権」に向けて、子どもたちは、早朝から放課後まで長縄の練習に励んでいました。帰宅した息子の話は毎日、長縄の練習やその日の記録のこと。疲れていながらも、熱心に話す姿に頑張りを感しました。

そんな子どもたちの応援をするために、私たち保護者もなにか協力できないかと考えました。そこで思いついたのが、おそろいのTシャツを作ること。子どもたち、先生方、保護者が一体になって頑張れるようにと願いを込めて取り掛かりました。色やサイズ、Tシャツのデザインなど、手紙を出しアンケートを取って、学校に集まり話し合いをしました。浜松ならではの応援の練習もしました。

出来上がったおそろいのTシャツを着て、見事に優勝を飾った子どもたち。声がかれるくらいの声援を送った私たち。本当に素晴らしい思い出を子どもたちや先生方と共に作ることができ、幸せな1年でした。

10年経った今でも、この1年のことが鮮明に思い出されます。これからもずっと心の中に大切にしまっておこうと思います。

最後になりましたが、県居小百周年の節目に思い出の文章を書く機会をいただき、ありがとうございました。今後の県居小の益々の発展を期待しています。

平成22年度卒 松島 雄之介 母
松島恭子(昭和52年度卒)



【資料・参考】
冊子:県居のひびき
インターネット
テレビ放映番組録画

茶道体験

4年生6年生が茶道体験をします

これまで、県居小学校では2年生4年生6年生が
年に一度茶道体験をしていました。
6年生はお茶室「松韻亭」で、体験します。

県居小学校卒業生の茶道の先生、後藤美佐子先生にお聞きしました。

1 県居小学校でいつごろから茶道体験がなされていますか？

初代の茶道の先生が、当時の齋藤和子校長先生から2000年頃にPTAの方を通じて依頼されました。

2 茶道体験が始められたきっかけをご存じですか？

校長先生の「子供たちに和の心を教えてほしい」という希望により、始められました。

3 茶道体験はどのように継続されてきていますか？

初代の先生が体調を崩されて、県居小学校卒業生でもあったことで2010年に引き継ぎました。はじめは全学年、2015年からは2・4・6年のみ、年1回の体験となりました。

4 茶道体験では具体的にどのようなことをしていますか？

2010年の山田かほる校長先生の時、茶碗、茶筌などの道具を購入していただきました。会議室に簡易畳を敷いて、和室風に茶花を生け季節を感じてもらい、和室での佇まい、姿勢、お辞儀の仕方など指導しました。静かな雰囲気の中、まずお点前を見てもらい、お菓子のいただき方、抹茶の飲み方を学んでもらいます。

茶筌を振って、2人1組になり、亭主と客の役割をしてもらうこともありました。

5 茶道体験を通じて子供たちにどんなことを伝えたいですか？

現在は時間数も限られている中で、学校で学べるのは4年と6年の2回のみ。

これをきっかけとしてお茶の歴史にも興味を持ち、美術館にも行って本物を見て、美しいものを美しいと感じられる感性豊かな人になってほしいです。

また、感謝する心、相手を思いやる心を大事にすることを伝えています。

6 県居小学校の茶道体験に対する想いを教えてください？

小学校正課で茶道をしているのは県居小のみとなりました。

(広沢小も昨年くらいからとりやめになったそうです)

子供たちには貴重な体験をして覚えていてくれたら、と願っています。





茶道講師 後藤 美佐子
(旧姓：小名木)

茶道体験

「和の心を学ぶ茶道体験」の指導を、ということで卒業生でもありました私が、御縁で引き継いで十年となりました。

市内の小学校で茶道体験を正課として行っているのは現在県居小学校のみです。年一回、校内で一年生から六年生まで致し、六年生は卒業記念茶会を松韻亭にて行います。教室は畳を敷き、花を生け、忽ち茶室に早変わり。点前を拝見する子供たちは興味津々。抹茶を苦いと感じる子や、お菓子が甘くて丁度良い、とそれぞれ楽しんでくれています。背筋を伸ばして静かに正座。言い慣れない「お先に」「お点前頂戴いたします」と感謝と思いやりの心を学んでいます。

担当の先生、お母さん方もしつらえの準備から、茶筌を振り、お運び、片付け等献身的にしてくださいます。

体験後は生徒の皆さんからたくさんの感想文をいただいて、感性豊かに和歌も詠んでくれています。短時間の体験ではありますが「落ち着いた。良い香りがした。和の文化を大切に、誇りに思う、これから歴史の勉強もしたい。」等々嬉しい言葉をいただいております。

2015年からは二、四、六年生のための体験となり、また今年は学校閉鎖にもなり、大変な状況になっております。それでもこの様な時だからこそ、和の心で、心穏やかに生活していける様にと、心から願っております。

100年目の県居小学校

～そして次の100年へ～

100年の歴史を持つ県居小学校では、1959年度（昭和34年度）の40周年記念の時から10年おきに記念の冊子が作られ、素敵な記事が掲載されています。そのどれもが県居小学校の歴史の証言者となっています。



1 開校当時

本校は大正9年4月1日、職員19人、学級数17学級で発足しましたが、時あたかも第一次世界大戦終結直後で、物価急騰のため校舎建築費が不足して、・・・工事遅延、元城・南・西の3校に寄寓して授業を行い、ようやく第一学期末に新校舎に移転することができました。当時父兄各位が、校庭の整備、備品の充足はもちろん、施設万般の費用をご援助くださった時のうれしさは今でも忘れることができません。

（初代校長 村松 十和吉先生 創立40周年記念誌より）

校舎は木造2階建てで、校門は北側の西の方がありました。運動場のまわりにはいちょう、ポプラの木がありました。

教科では、国語のことは「読み方」と言い、図画、地理、歴史、体操、修身、算術、習字、女子は裁縫などを習いました。運動ではうんてい、ろくぼくをよくやりました。

その頃の服装はほとんど着物で、女子は三尺の帯をしめる人や袴をはく人がいました。かばんは男子が肩かけ、女子は手提げのようなものでした。

（大正12年卒業 川合 たけさん 創立60周年記念誌より）



2 県居小の校地

県居小学校の運動場の整地については、かつて川島浦治さんより第14代PTA会長の川島順三さんに次のような話があったようです。「祖父俊吉さんは新たに開校した県居小学校の運動場の広さが十分でないことを不憫に思い、堀留運河が所有している斜線の部分を昭和三年に浜松市に寄付、現在の形になった。」最近の県居小学校の発展と子供たちの活躍ぶりに祖父もきっと喜んでいることと思います。

(川島 順三氏 寄稿 創立80周年記念誌より)

運動場の真中に幅1メートル半くらいのどぶがあり、遊びに夢中の学童達が時々落ちたり、大雨が降ると運動場は水がいっぱいにたまったりしました。校舎の東側には直径3メートルもある大きな井戸があり、青々とした水が上まであふれていて、のぞくとゾーっとしました。校舎の中庭にあった金魚の形をした池なども昨日のここのようにうかびます。

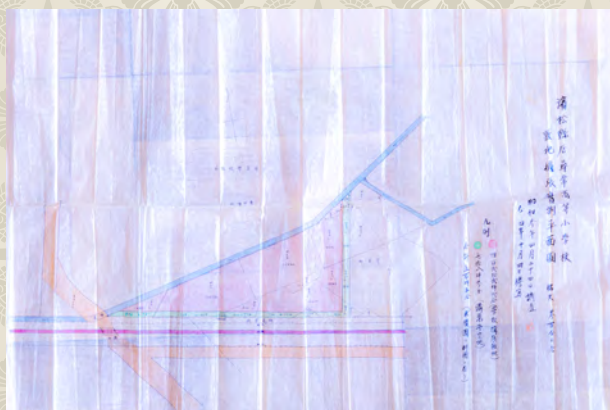
(伊藤 宣司氏 寄稿 県居だより33号創立40周年記念号より)

鉄道工場用地だったとかで、埋め立てた土地だけに椎とか杉といった古木がなく、・・・何千という卒業生のわんぱくぶりを見守っているものがなく残念だ。ただあの大きな井戸だけが密かに知っているだけではなかろうか。

校庭の真中を南北に1メートルくらいの排水溝が通っていて、流水がなく、所々草が茂っており、橋が2、3カ所かかっていた。それを飛び越える者がいてよく溝に落ち、休み時間にこの泥を大きな井戸のところで洗っているのを見受けたものです。

近くの堀留運河も今のような水たまりではなく、三ケ日の河原を運んでくる舟で賑わった。白帆をかけて、岸を綱でひいていたことも思い出にある。

(清水 哲雄氏 寄稿 県居だより33号創立40周年記念号より)



3 戦争の爪痕

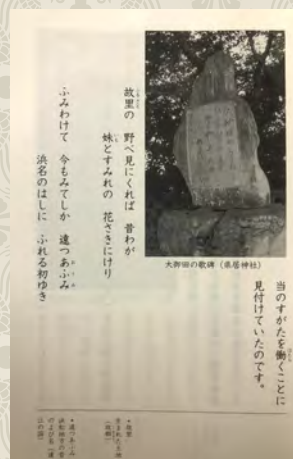
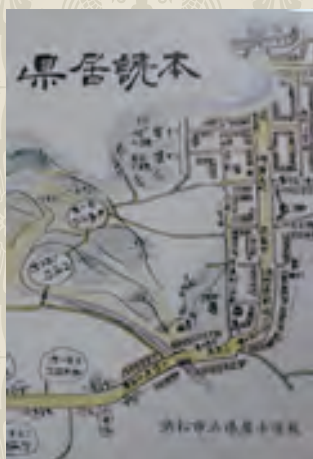
昭和20年6月18日、夜の夜空襲にあい、浜松全市は焦土と化したのであった。・・・校舎は全部焼け落ちて奉安殿と金庫が残ったのみであった。散乱したバケツを拾って、折れ曲がった水道栓から流れ出る水を受けて、金庫にかけながら夜の明けるのを待ったときの印象は、今でも時々思い出してゾットする。悲惨な終戦を迎えたのが8月15日、虚脱状態になった心を引き締めて、焼け跡に千円バラックを建て、ここを拠点として、3分の1に減った児童を集めて分散授業を開始した。

戦は終わったが、・・・職員は運動場を掘り返して甘藷、馬鈴薯、麦菜等を作って・・・

(3代校長 袴田 彦一氏 寄稿 創立40周年を迎えてより)

終戦直後、教育は1日もゆるがせにできない、焦土と化した県居校をいかにして復興するか、それは当時の自治会長や有識者から期せずして起こった声でした。分散授業、仮校舎の建築、西校跡への移転等々、全てが復興への歩みでした。・・・昭和22年度全国的にPTA結成の気運がみなぎり、本校も同年2学期早くも発足して、・・・当時学校を中心に、父兄が一丸となって復興に燃え上がった姿が眼前に浮かびます。

(初代PTA会長 川島 浦治氏 寄稿 創立40周年を迎えてより)



4 県居読本

初版が昭和11年10月15日に出されて以来、改版を重ね平成30年4月1日に第6版を出版しました。その間一貫して、真淵翁が説いた「学ぶ心」「愛する心」そして「師弟の心」を示しています。そして、ふるさと浜松を愛する心を持ち続ける子供たちの育成に寄与しています。

「人に自慢したりえらぶったりしてはいけない。自分から勉強し、こつこつと努力すれば、自然に認められるものである。」という、真淵翁の教えが残されています。

「うらうらと のどけき春の 心より

にほひ (い) いでたる 山ざくら花」

真淵翁の和歌の心をよく表したこの歌は今も県居小の子供たちが朗読しています。

5 郷土資料室

明治時代の教科書から昭和の家庭用品まで、地域の皆様から寄贈いただいた貴重な資料が保存されています。その中で、県居らしい展示物は、第1に賀茂真淵に関わる資料です。また、伊場遺跡や8町の凧、堀留運河など歴史ある県居地区の貴重な資料が保存・展示されています。





県居小学校 創立100周年記念誌

子どもたちの夢は無限です
— 未来に夢をはせて —



坂口 直樹
 坂口 祐樹
 笹田 悠介
 鈴木 拳生
 鈴木 美咲
 鈴木 昊
 高田 爽羽
 高橋 茉里
 富田 桂吾
 服部 陸哉
 原 慧鈴
 針幸 泰希
 平田 歩斗
 藤田 朋世
 松下 真弥
 松島 麻琴
 松村 理生
 宮崎 珠里
 山田 康太
 横田 花
 和田 菜々瀬
 渡辺 愛菜

いつも見る 地域の人が見守って 安全に行く ぼくらの学校
 休みの日 地域の人に あいさつし ふれあいながら 仲良くなる
 ありがとう PTAの方々に いつも裏で 支えてくれる
 朝行くと いつも笑顔で 門にいる そんな笑顔が とてもうれしい
 六年間 安心して 学校に 地域の人が いてくれたおかげ
 窓から見える 教室の外 五輪の山 ぼくは好き 百回目の卒業生で よかったな
 二十歳 トマトのことは まだ好きかい 県居給食 思い出してる？
 六年間 窓の景色も 変化して ああの頃の笑顔 また戻りたい
 県居小 思えば短い 六年間 ずっと変わらぬ 筆箱と夢
 ありがとう 真淵記念館の人たちへ 県居で学ぶ ぼくたちのために
 横断中 黄色の旗の かがやきが 私の背中を 押してくれた
 こごえる手 正門の前 歩く時 笑顔のおはよう ねむけがとれる
 県居小 優しい友を 忘れない みんなみんな ありがとう
 信号機 向こう側には 地域の人 黄色い旗が 守ってくれる
 寒い朝 地域の方のおはようの 一言だけで 温まる心
 登校時 地域の方のおはようで 安心をして 学校に行く
 ランドセル 全ての思い出 つまってる 県居小への 感謝の気持ちも
 県居の 学んだことを 活用し 行きたい道へ 突き進んで
 八年後 未来の自分に お聞きします 今の職業 何でしょうか
 六年間 ひたすら一歩 努力した 色んな経験 次へつなげる
 県居小 習った勉強 生かしつつ 夢に向かって 走ってるかな
 「がんばって」 未来の自分へ メッセージ みんなの役に 立てているかな

感謝と未来への夢が つまった

百年目の卒業生

令和元年度(二〇一九年度)卒業生

青木	花菜	数年後	未来の私	この和歌で	これまでの事	懐かしむのかな
縣	怜磨	八年後	自分は絶対	就職し	自分の夢に	向かって進め
市川	さつき	友達と	大事な事も	学んできた	その学びをね	生かしていきたい
内山	真継	六年間	クラスの景色	見ていたら	みんなの個性で	クラスが豊かに
大崎	幸	積み重ね	ゴールを目指し	一歩ずつ	未来の自分	夢をかなえて
大宮	純太郎	八年後の	未来の自分	就職し	たくさんかやいで	家族に恩返し
尾形	喜法	登校中	守ってくれる	危険から	優しい大人	感謝の気持ち
小楠	里空	ありがとう	思い出つまった	この校舎	百年後でも	変わらないでね
河合	智	県居で	長い伝統	受け継いで	この伝統を	次へとつなぐ
河合	那緒美	がんばって	未来の自分	絵がうまい	イラストレーターに	なれるように
川島	柚希	目を閉じて	見えた暗やみ	その色を	望んだ未来へ	変えていくんだ
倉田	凜太郎	六年間	見守ってくれて	ありがとう	毎日安全	登校できる
クアド	アルエン	六年間	学校の物を	使ってきた	それぞれの物に	感謝を込める
クアド	エウエン	県居で	勉強を	いっぱい学んだ	夢に向かって	行きたい道へ
五島	宗汰	県居小	仲間と過ごした	六年間	これからの日々も	大切に過ごす
小林	歩	六年間	勉強運動	わかるまで	教えてくれた	先生に感謝

今のわたし 百年目の在校生



たのしみは ぶるであそぶよ みんなでね

ぱしゃぱしゃばた足 すいすいおよぐ

一年生 齋藤 匠

たのしみは ごりんの山で あそぶこと

とてもたのしい みんなとあそぶよ

一年生 桐山 晴空

たのしみは おおきなぶるる がんばって

およげるように なりたいです

一年生 加藤 日向

たのしみは たいいくであそぶ ともだちと

かけっこあそぶ みんないっしょに

一年生 大村 心音

たのしみは どっじぶるに てつぼうだ

かけっこもときい たいいくのじかん

一年生 太田 和

たのしいな ともだちいっばい つくったよ

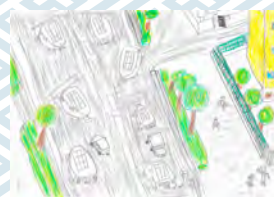
おしゃべりすると なかよくなれる

一年生 内崎 芽依

たのしみは いっぱいよむよ きょうかしよを

ひらがなおぼえて すらすらよむよ

一年生 伊藤 克樹



たのしみは べんきょうすること しょうがくせい

じをおぼえて きれいにかくよ

一年生 長谷川 碧

たのしみは ごりんの山で すべりだい

かぜがくるよ きもちがいいよ

一年生 名倉 裕起

たのしみは みんなでおよぐ なつのぶるる

ぱしゃぱしゃあそぶ ぶくぶくおよぐ

一年生 徳永 琴子

たのしみは おにごっこだいすき みんなとね

こおったともだち たすけにいくよ

一年生 田中 魁星

たのしみは ごりんの山で すべりだい

ゆうぐであそぶよ みんないっしょに

一年生 武田 桜来

たのしみだ がっこうのぶるる あついなつ

ぶるるですいすい ぶるるでぱしゃぱしゃ

一年生 高橋 穂乃

たのしみは たいいくのじかん かけっこだ

ぼくははいぞ ーいだやった

一年生 高杉 怜央

たのしみは ごりんの山で すべりだい

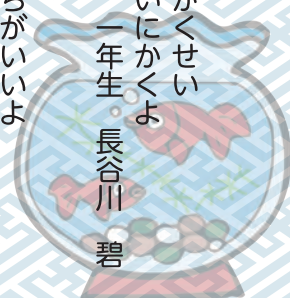
あにもうしろで あそんでいます

一年生 鈴木 深月

たのしいな みんなとかけっこ おにごっこ

おにからにげる はや足でにげる

一年生 鈴木 空我



たのしみは つめたいぷる うれしいな

みんなでおよぐ わくわくするよ

一年生 川北柚子菜

たのしみは ぷるるでおよぐこと およぐのがすき

ばくばくするな つめたそつだな

一年生 荏原 史雄



たのしみは ぷるるだよ みんなとおよぐ

たのしみだけど びくびくだ

一年生 江崎 碧斗

たのしみは ぷるるでおよぐこと きもちがいいよ

あついとちようどいい わくわくするよ

一年生 岩田航太郎

たのしみは おんがくのじゅぎょう

おとがきれい たんぶりん たのしみだ

一年生 伊藤 結舞

たのしみは みずかけにいく まいあさね

あさがおのはな たくさんさかそう

一年生 和久田紗楽

たのしみだ ぷるるでおよぐぞ みずのなか

ばた足ばたばた すいすいおよぐ

一年生 山中 湊仁

たのしみは ごりんの山で すべりだい

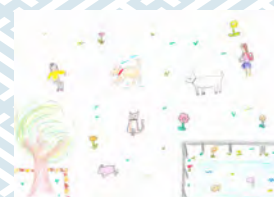
わくわくわくと みんなあそぶよ

一年生 松井 涉悟

たのしみは さんすうのじかん がんばるぞ

すうじだいすき けいさんとかい

一年生 牧 直樹



たのしみは たいいくのじかん はしること

はやくはしって いちばんとるぞ

一年生 田中 悠一

たのしみは ぷるるでおよげること

かおつけしたり つめたいんだよ きもちいいよ

一年生 竹山 千賀

たのしみは たいいくのはしり ちからづよく

なりたいんだ いっぱいたすけるぞ

一年生 武田 圭悟

たのしみは 五十めえとる はしるんだ

きろくがはやく になれるといいな

一年生 竹下 斗夢

たのしみは みんなでぷるるで あそぶこと

じょうずになりたい うれしくなるよ

一年生 高山こはる

たのしみは こくごのほんよみ ほんがすきだよ

しをおぼえられるから たのしくやるよ

一年生 鈴木 康耀

たのしみは いえにかえって またがっこう

てつぼううんてい ともちあえる

一年生 島崎 椋汰

たのしみは きゅうしよくとうばん

わけるときつて たのしいんだよ わくわくするよ

一年生 佐藤 栞風

たのしみは ずこうでつくる ねんどのじかん

たのしみだなあ おもしろいんだよ

一年生 藏敷 凜緒



きゅう食で シチューが出ると うれしいな

おかわりたくさん してしまふよ

二年生 時盛 惇平

スラスラと たしさんかけさん できるよう

れんしゅうたくさん がんばってやるぞ

二年生 小野 晴陽

百さいを むかえた学校 すごいなあ

五りんの山は パパもぼくもすき

二年生 長田 清春

さいきょうの は虫い王 しらわさん

イズーで会って お話したよ

二年生 安藤 優心

たのしみは ずここのじかん えのぐをつかうよ

えをかきたいな きもちがいいよ

一年生 山城 珠莉

たのしみは ぷうるでおよぐ がんばるぞ

一ばんふかく およいでやるぞ

一年生 森下 知哉

たのしみは ぷうるでおよぐ

およげる人になってやるんだ れんしゅうするぞ

一年生 望月 晴紀

たのしみは うんどうかいの ときようそう

はやくはしって いちばんとるぞ

一年生 松本 杏

たのしみは ぷうるでおよぐ じゅぎよう

およぐのすきだ きもちがいいよ

一年生 徳田 雪歩



友だちと お話をして なかよしに

あそびうんどう 大すきいっぱい

三年生 澤柳 心音

がんばってる 今の私 きれいな字

えがおでべんきよう なかよくすごす

三年生 佐藤 翠娃

さかあがり ようやくできた うれしいな

またやりたいな 鉄ぼう遊び

三年生 内崎 哲平

大すきだよ ちようかわいい わたしとママ

いつもいっしょ いつもなかよし

二年生 古橋 花凜

一年生 むずかしかった ひきざんが

たのしくかんじる 今年二年生

二年生 藏敷 眺聖

八さいの たんじょうびには ストロベリー

だいこうぶつを はやくたべたい

二年生 石川エリス

さんすうで えんぴつけしごむ はかったよ

ものさしつかえば なんでもはかれる

二年生 松田 晴斗

休み時間 虫とり大すき あそんだら

にがしてあげる いのちは大じ

二年生 藤田 修哉

目ひようは し合に出るぞ 水えいの

今はまだまだ 十メートルだけ

二年生 長倉 栞真



四年生 学年上がる たいへんだ

にがてな算数 がんばりたいな

四年生 久保田 雪

楽しいな 手作りごまで 遊んだよ

びゅんびゅんびゅん いい音なるよ

四年生 加藤 一樹

三年生 おねえさんだね うれしいな

やさしい心 大切にして

三年生 渡邊 未朱

和歌ひびき 思い出すのは ランドセル

心もはずむ 笑顔がふえる

三年生 村田さくら

おにごっこ あそび大すき けんかしても

なかよくなった ずっと友だちだよ

三年生 松原 秀真

学校が ふっかつできて うれしいな

やっと思行けて みんなに会えて

三年生 福田 乙葉

三年生 べん強たくさん しんかする

どんどん成長 がんばるぞ

三年生 野崎 美奈

三年生 社会と理科も がんばるぞ

新しいこと どんどんちようせん

三年生 鈴木 音弥

おにごっこ みんなでやると もり上がる

楽しくなっちゃう あそぶの 大すき

三年生 鈴木ありあ



四年生 高学年だ 勉強も

いっぱいやるよ むずかしいけど

四年生 村尾 直紀

四年生 次の一步 すすむんだ

がんばって すすむんだ

四年生 竹山 時人

鈴木禅 読書のいずみ がんばるぞ

今年はぜったい 早く終わらす

四年生 鈴木 禅

いまのぼく いまの自分は 幸せだ

とてもうれしい とても楽しい

四年生 CANO FRANZ
EDUARD
NARCISO

算数の問題を見て にらめっこ

むずかしいほど とけた感動

四年生 大場 奈実

百年の れきしの一員 今のぼく

学びに全力 今後につなぐ

四年生 上畠光志朗

県居で 勉強したり 遊んだり

とても楽しい 毎日のこと

四年生 松本 大樹

がんばって モデルになって キラキラと

かがやくために 練習するぞ

四年生 袴田 葵

四年生 コロナのせいで 生活も

いつもとちがう くらし方へと

四年生 田仲 功磨



今年はね 最高学年 お手本に

自覚をもって 一年がんばる

六年生 弓桁 陽太

県居の 六年として 自覚もち

代表として みんなを引っ張る

六年生 山下 朋美

今の自分 たくさん失敗 するけれど

経験生かし 成長していく

六年生 丹羽 健介

未完成 まだがんばれば 成長に

つかむためには 自分でさがせ

五年生 西村 望夢

今のぼく 四年生の 時とはちがうんだ

未来のぼくに

五年生 NGUYEN
DUC GIA BAO

五年生 がんばることが たくさんだ

自覚すると 成績アップ

五年生 小澤 華

今までの 時間やけいけん つみかさね

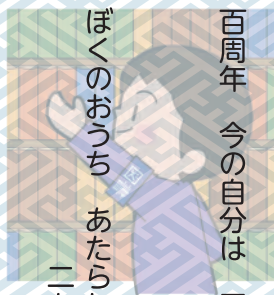
今の自分が できあがっている

五年生 稲垣 昂平

百周年 今の自分は 五年生

一年早く 生まれりや卒業

五年生 天野 武劉



ぼくのおうち あたらしいおうち ひっこした
二かいだてで ぼくのへやもある

四年生 REAMNONNA
MIN-RO PAND



未来の県居小学校



未来の五輪の山

バスケット ボール片手に 練習を

ルール覚える アニメのおかげ

六年生 早川 武蔵

毎日と 続けてしてる 勉強が

将来役に 立てるといいな

六年生 鈴木 凜

今はまだ 小学生だが 努力して

未来に向かって 全力疾走

六年生 鈴木 綾

六年生 責任感を 持ち続け

下級生への お手本となる

六年生 木下由依菜

今の県居小学校



五りんの山 ながいすべりだい のぼるのが
すごくたのしみ じいじときたい

一年生 大貫 新汰

すべりだい ジャンブルジムに おにごっこ
やすみじかんだ あそぼうみんな

一年生 小楠 大和

五りんの山 みんなですべると たのしいな
とんねるくぐって みんなであそぶ

一年生 古瀬 晴埜

休み時間 いつもみんなで おにごっこ
とくに楽しい ふやしおにだよ

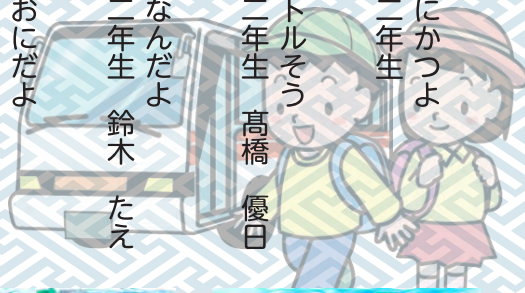
二年生 鈴木 瑛音

県居の きゅうしょくは おいしいな
やさいが一ばん 大ききなんだよ

二年生 鈴木 たえ

体いくで 五十メートルそう たのしいな
またやりたいよ 五十メートルそう

二年生 高橋 優日



小学校 父さんと同じ ところだよ
できごと話す きいてくれるよ

二年生 澤田 龍音

県居小 ブランコのおって 楽しいな
ゆらゆら動く 次の遊びに

二年生 佐藤 琉偉

わらってる いつも小学校は 明るいな
県居小 ずっと すごく楽しい

二年生 桐山 晴希

どこまでも みんながんばる てっぺんまで
いつも楽しい 県居小

二年生 梶川 叶翔

すきなんだ ゆうぐがめっちゃ 楽しいから
まい日とう校 ぼくがんばる

二年生 内山琥太郎

楽しいな わくわくするな 県居小
いつも元気だ えがおいっぱい

二年生 伊藤 碧

五りんの山 あたらしくなった すべりだい
キラキラしてる 黄色と青色

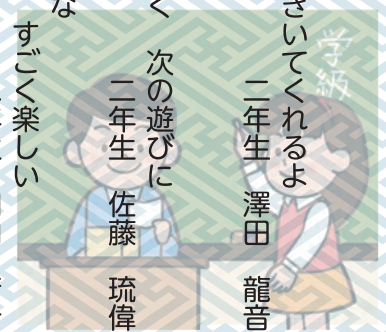
二年生 原 志希

きゅうしょくが とてもおいしい さい高だ
きらいなものも のこさずたべる

二年生 早川 雫

のぼりたい 五りんの山 てっぺんまで
のぼってすべる すごくたのしい

二年生 丹波 優智



県居は みんなやさしく なかがいい
友だちいっぱい

とても楽しい

三年生 大庭 彩楽

楽しい日 うれしい日もあったな

いつも楽しい 朝日がのぼる

三年生 池田 瑛登

県居小 生きたがんばった 百年間

子どもいつまでも 二百年

二年生 谷野 義仁

県居は すごく楽しい 小学校

大すきなゆうぐは ブランコだよ

二年生 森 朱夏

いつもいい 全部楽しい 県居小

どんなときでも たすけてくれる

二年生 松下 晟弥

さいこうな すてきなところ 楽しいよ

みんなあつまれ 県居小へ

二年生 本名 航

百しゅう年 県居小学校 ごりんの山

パワーアップした 強い二年生だ

二年生 深沢 璃空

県居小 百しゅう年を きねんして

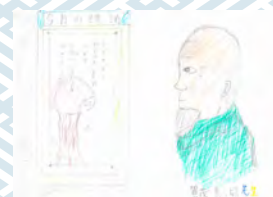
五りんの山に 弟できた

二年生 針幸 浩希

すべりだい 新しくできた もう一こ

すべってはやく スピード出た

二年生 田村 颯士



県居小 べん強たくさん 学べるね

心と体 たくましくなる

三年生 種茂 日向

そう合や パソコン社会科 がんばっている

ほかに理科も 勉強している

三年生 芹澤 景伍

県居小 ゆうぐがいっぱい 楽しいな

大すきなゆうぐが いっぱいある

三年生 鈴木 緋里

和歌作り 思い出いっぱい 百周年

みんなでなかよく でんとう守る

三年生 嶋野 白菜子

県居小学校 百周年 長くのこった

県居小学校 すごいぞ県居小

三年生 塩塚 頼聖

県居小 今年でやっと 百周年

新しい先生も 入ってきたよ

三年生 樽松 昞士

県居小 きれいになった すべり台

もっと勉強 がんばりたいな

三年生 木村 理人

新しく 五りんの山が かんせいした

すごく楽しい 県居小学校

三年生 木下 萌杏

県居は かもまぶちの 和歌がある

マスクでろうしょう 心で歌う

三年生 河原崎 麻央



五りんの山 新しくなったよ うれしいな

上まで行ったら みんなが小さい

三年生 山内 そよ

百周年 まだまだつづく 県居小

五りんの山で 遊ぶぼくたち

三年生 望月 健進

県居は 百周年で おおよろこび

とてもすてきな 小学校だ

三年生 宮崎 真帆

県居小 百周年だ

五りんの山も しんかをしてる

三年生 増田 結斗

なかよしな 県居小

たすけあい あたまをつかう

三年生 袴田さゆり

県居は 楽しいことが いっぱいだ

今日もえ顔で はりきって行く

三年生 袴田 恵翔

県居は 五りんの山が 大にんき

すべり台が 二つある

三年生 中村美咲希

県居小 百周年だ おめでとう

これからずっと 大事にするよ

三年生 中村 琴音

県居の 五りんの山が かわったよ

みんなで楽しく あそびたいな

三年生 田原 蒼唯



県居小 生まれ変わった 五りんの山

みんなのことを 見守っていてね

四年生 野中 葉月

県居の 白い石ぞう たくさんだ

思いやりの 気持ちをしめす

四年生 中澤 奨

夏になり プールに入り 気持ちいい

みんなでもぐって じゃんけんぽん

四年生 芹澤 賀舟

県居は いつも元気な 学校です

みんなが来たよ うれしいな

四年生 倉田颯太郎

県居は 百周年を むかえたよ

みんな仲よく みんなえ顔で

四年生 菊池 心春

県居小 百年記念 たちました

これから先も 続いてくかな

四年生 加藤 朋成

県居の 和歌は作って 楽しいな

みんなで作って 県居えがお

四年生 上畠丞太郎

県居は 心の中で 日本一

やさしい生徒 やさしい先生

四年生 伊藤 寧音

県居小 百周年の

おいわいに 五りんの山が キレイになったよ

三年生 山中 柚芽



県居は えがおいっぱい あいさつが

ひろがるんだよ 自まん学校

四年生 中村 優月

百年の 歴史があるよ 県居は

すごいな学校 ろうしゅうもある

四年生 高田 琴羽

コロナのね 休校おわって 六月で

水曜日がい 六時間だよ

四年生 鈴木 佑一

むかしから かわらず遊ぶ こどもたち

五りんの空に 遊具がかがやく

四年生 長田 花帆

県居小 百年たっても 伝統は

まもっていくよ ろうしゅうや和歌

四年生 大村 茉央

新しい 五りんの山が できました

みんなで遊ぶと 楽しいですよ

四年生 宇都宮 優

おじいさん 思い出たくさん 百周年

これからずっと お友達だよ

四年生 池谷 音葉

声ひびき えがお広がる 県居小

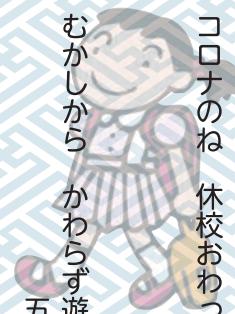
もつとつながれ ずっと先まで

四年生 牧野 和永

五輪の山 スピードつけて すべったよ

風が当たって 最高の気分

四年生 藤田 翔一



新しくなり カラフルになった 五輪の山

楽しくすべる え顔広がる

五年生 齋藤 彰

今年はね 県居小の 百周年

一度しかない 百周年

五年生 河合那優太

未来むけ 県居小は 進んでく

これからずっと 消えない希望

五年生 梶川 結叶

百周年 記おくに残る 県居小

未来への道 県居の鐘

五年生 小澤 萌音

子供の声 元気に遊ぶ 校庭で

だいにんきだよ 五りんの山は

四年生 弓桁 優斗

元気だよ みんな楽しく 来ているね

8の字とびも がんばっています

四年生 柳澤汰久真

わかづくり ろうしゅうたう 県居小

かものまぶちの れきしひろがる

四年生 松井 彩夏

県居小 そつ立百年 れきしある

でんとうをまた うけついでいく

四年生 増田 理人

県居小 きねんすべきの 百周年

きねんをね つづいてほしい

四年生 西山 佳祐



歴史ある 百周年だ 県居は

五輪の山が パワーアップだ

六年生 加藤 良成

県居小 あじさい咲いた 百才の

つまり学校 百周年だ

六年生 大村 朋輝

おめでとう 百周年の 県居小

これからも未来へ つなごう県居

五年生 三宅 真晴

県居小 賀茂真淵の 和歌をよみ

学びのはじめ 毎日うたう

五年生 藤田 師行

楽しくて みんな笑顔の

県居小 県居小は いつもキラキラ

五年生 羽佐田和史

県居の 五輪の山は 楽しいよ

百年先も 残ってほしい

五年生 竹下 颯

今年だね 百周年だ 記念すべき

ずっとあるよ 県居小

五年生 鈴木 愛佳

全校で 口を開いて 歌い出す

いつまで続く この日常は

五年生 澤田 望華

おめでとう 県居小が むかえたよ

百周年だ 明るい未来

五年生 阪口 水樹



県居小 伝統続く がんばろう

ぼくも一緒に がんばっていく

六年生 小林 健太

八時から きれいな声を 響かせて

リードに合わせ 朗唱歌う

六年生 上畠 実天

たくさんの方 笑顔あふれる 県居小

心はずませ グランド走る

六年生 山本 夏凜

百周年 五輪の山が かわったよ

梅雨に入って 雨が多い日

六年生 村松 恭佑

時をこえ 人が集まり 勉強し

しょう来に向け 走っているんだ

六年生 村田 千鶴

百周年 五輪の山が リニューアル

新たな山に みんな集まる

六年生 松本 睦樹

県居小 歴史たくさん もっている

和歌はいつでも 人を支える

六年生 本多 利紗

県居小 笑顔にあいさつ あふれ出る

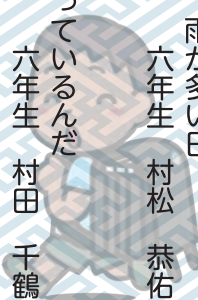
こんな日々が 続くことを

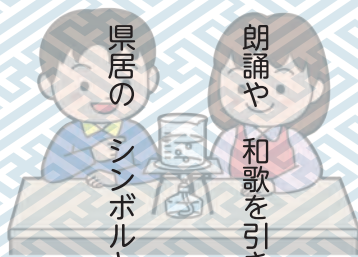
六年生 久保田珊瑚

百周年 朗誦と和歌 受けついで

これからもずっと 未来へつなぐ

六年生 河合 啓太





県居の
シンボルとなる

五輪の山
卒業するまで

たくさん遊ぶ

六年生 鈴木 健吾

朗誦や
和歌を引き継ぐ

県居小
百年変わらず

伝統受け継ぐ

六年生 中村 愛美

令和になり 百周年を 待っていた

コロナがはやり 学校大泣き

六年生 福井 沙彩

ウィルスで あいさつ運動 ないけれど

登下校でも あいさついっぱい

六年生 福田 一稀

県居小 元気にあいさつ あふれてる

未来に残す みんなの宝

六年生 前澤 伊吹

五年生 六年引き継ぎ 頂点へ

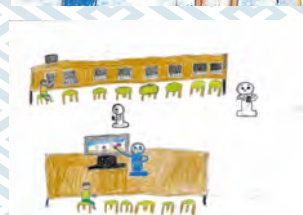
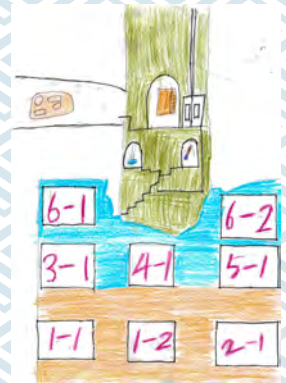
みんなのお手本 未来へつなぐ

六年生 松芳 碧巳

みんなで行く 校外学習 楽しいな

レストランでも おいしい食事

六年生 渡辺 豪樹



未来のわたし



広いんだ せかいの人が はたらいている

はたらく人が どんどんふえる

二年生 小澤 美月

目ざすのは こううんなじ分 いまのまま

きょうもあしたも うれしくなあれ

二年生 岡田 晴

みらいはね もっともだち つくりたい

みんなとわらう みらいのじ分

二年生 藤森 環

しょうらいは いしゃになって 人たすけ

コロナのくすり がんばってつくる

二年生 花田 悠希

しょうらいは ペットショップ 楽しみだ

べんきょうして はたらくんだよ

二年生 長谷川華音

はつくつだ はかせになって きょうりゅうの

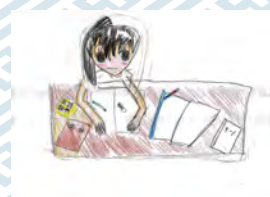
化石を見つけて 大はっ見だ

二年生 野中 碧

ロボットで いろんなことを するんだよ

家をたてて そこですむ

二年生 伊藤 怜巨



しょうらい じえいたいの船に乗るんだ

日本は守るよ ぼくが守るよ

三年生 三上 白流

楽しい町 平和な世界 大きな町

かっこいい車 でっかいおうち

三年生 原田 凌輔

ドーナツや ケーキにプリン マカロンも

せんぶつくれる パティシエかも

三年生 瀬崎 仁湖

お金もち 博士や医者や 数学者

ぜったいなるよ きつといつかね

三年生 佐藤 友星

べんきょう がんばったかな できたかな

きらいな時間 あきらめないで

三年生 齋藤 琉那

私はね パン屋さんに なりたいよ

こねこねするよ おもしろそうだ

三年生 樽松 友菜

お花やさん きれいな花を そだてたい

未来の私のゆめ かなえたい

三年生 伊藤 悠花

しゅくだい あしたのよてい おわらせる

ひとりでがっこうへ あるきます

二年生 中嶋 久実

本を読む 星たんさき

おぼえなきや うちゅう博士 研究するんだ

二年生 桑原 そよ



たんけんたい いろんなところ たんけんだ

深海砂ぼく ジャンブル宇宙

四年生 星 春爾

たくさん きぼうがつまる 子どもたち

いろいろなこと おしえるわたし

四年生 河合咲耶花

動物を ぴかぴかにして 毛を切って

かわいくできる トリマーになる

四年生 宮田 美結

将来は カメラマンにね なるんだよ

カシャカシャカシャと 写真をとるんだ

四年生 牧 歩美

練習を 毎日続け うまくなる

将来の夢 ピアノの仕事

四年生 舟根沙耶香

未来の自分 習ったことに 向かってく

これからずっと 一生けんめい

四年生 徳永 茉莉

体力を つければつくほど 夢近づく

私の夢は 一級建築士

四年生 鈴木 章央

未来では 夢がかなって 楽しくて

すてきな人に なれたらいいな

四年生 齋藤 栞

お勉強 成績アップしているか?

空気を読んで 行動しよう

四年生 金原 天真



先進む 未来の私 どうだろう

りっぱになって 未来のはじまり

五年生 谷野 寧音

未来では しっかりしている ぼくがいい

何でも全力 出してがんばる

五年生 宮澤 一哉

丸理紫亜 銀行員に 多分なる

絶対なるぞ 銀行員に

五年生 丸 理紫亜

かつこよく 夢をかなえて 働くよ

大人になった 私を見てよ

五年生 野村 俐凜

百年で 変わる県居 見ていると

自分も変わる 時が来るはず

五年生 富田 航太

卒業し 大人になって 働くよ

みんなのために がんばる時間

五年生 玉上 蒼

かつこいい 動物医師に 夢思う

いつか立ちあげ 動物病院

五年生 瀬崎 颯良

スーツを着 ネクタイをしめ 自立する

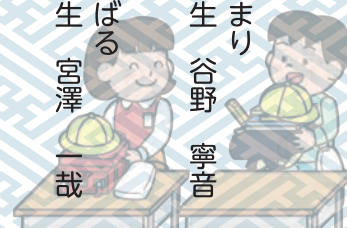
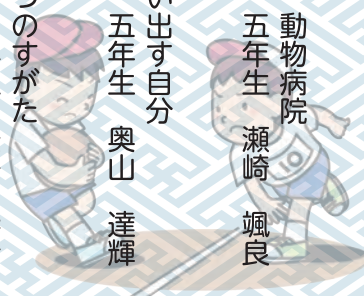
小学生を 思い出す自分

五年生 奥山 達輝

未来のぼく 今よりもっと やさしくて

勉強できる 上たつのすがた

四年生 松島 響希



プロ野球 開幕戦の スタメンで

出場をして ホームラン打つ

六年生 樽松 珀士

未来では いろんな人に たよられる

そんな大人に なるのが目標

六年生 木村 心春

時はたち 卒業してから 早十年

今はどこかの 国の街にと

六年生 川口 心菜

陸上で 十秒切るぞ 新記録

五輪目指して 世界で活躍

六年生 CANO CABLE
ELIJAH
NARCISO

社会人 一人一人が なる仕事

父母見習い 育って過ごす

六年生 小野 陽莉

世界を 知るために出る 旅へ出る

たくさんの国 たくさんの場所

六年生 江崎 斗麻

六年間 いつも一緒に ランドセル

さよなら言う日 せまって来るよ

六年生 マイスン
ティアラメイ

つらい人 笑顔にするよ やくざいし

コロナにまけず 元気にゆめへ

五年生 山口 凜



たよられる リーダー存在 になれるかな

下の子たちにも 教えてあげたい

六年生 鈴木 七海

しっかりと 自分の意見を 持ち歩く

友達いっぱい 笑顔がうかぶ

六年生 稲垣 結

未来の自分どうなっているか 分からない

でもいい大人に なれるといいな

六年生 青野 亜美

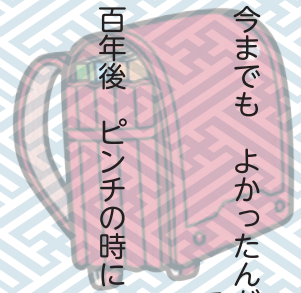
たくさんの 人の心に メロディを

ぎゅっとまとめる 指揮者の私

六年生 小山 萌夏



未来の県居小学校



今までも よかったんだよ 県居小
でもねもつと

よくなる学校は

三年生 北島和可葉

百年後 ピンチの時に 動き出す

ロボット校しゃ せいぎの県居

三年生 太田 唯

百周年 わくわくすぐに たつてしまふ

なんかすごいな もりあがつちやう

二年生 田中 奈花

どうなるか 未来の県居 見にくるよ

みんなで会おう 五りんの山で

二年生 高橋 晃正

わくわくわく どんなふうになるのかな

未来の県居 早く見たい

二年生 笹田 果歩

ばくたちが べんきようした きようしつ

みんなのゆめと たくさんゆめ

二年生 渡辺 寿叶

みらいのね 県居小 今よりも

本がいっぱい 読みほうだい

二年生 佐々木暖和



百周年 千周年と 続いてく

次の世代へ 受けついでいく

五年生 大崎凜太郎

県居の やさしい心 わすれずに

協力し合い みんな仲良く

四年生 山下 暖佳

この先も みんな見守る 学校だ

れきしつまった 県居小

四年生 藤森 心

未来には 県居小

きかいを ぜん校せいと つかつていくよ

四年生 服部 美紅

県居を ささえていくよ わたしたち

未来のために がんばっていく

四年生 鈴木 悠花

県居小 いつもいつも

たのしいな 未来の学校 どうなるのかな

四年生 鈴木 翼

県居小 今年はそう立 百しゅう年

未来に向かって 立ち続けてよ

四年生 松芳 悠汰

県居小 未来は楽しい

いい所 過去もきつと いい所だな

四年生 中村 颯真

未来のね 県居小は どうかわる

早く未来の 県居見たい

三年生 宮澤 悠太



未来まで あいさつ朗誦 つなげたい

未来の県居 明るく元気に

六年生 鈴木 聖奈

学校が 残ってほしい いつまでも

和歌の世界と 真淵の教え

六年生 掛井 翔太

にぎやかな 学校作り 成功し

元気と学びで いっぱいの学校

六年生 奥山 史都

県居の 伝統はいつも つながってる

この場でずっと 歌われていく

五年生 牧野 照和

百周年 これからもっと 続いてく

未来の県居 どうなるのかな

五年生 鈴木 夏音

県居の ずっとかわらぬ 桜の木

ももいろをした 美しき花

五年生 菊池 真心

県居小 未来はどんな ふうなんだ

変えるのぼくら みんなの団結

五年生 加藤 秀

何十年 何百年と 伝統は

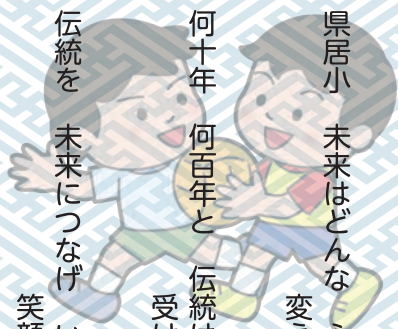
受けつがれていく この響きは

五年生 小澤 琉菜

伝統を 未来につなげ

笑顔あいさつ ほこりを持って

五年生 大谷 彩菜



変わらない 同じ姿で むかえるよ

時とともに 進んでいくよ

六年生 吉村 うぶ

友達と 一步一步と 共に行く

ちよつとぬかれて また追いつく

六年生 増谷 心海

学校の 笑顔はずっと 変わらない

県居小は 百五十周年

六年生 袴田 凜花

未来には 笑顔たくさん 咲いている

みんなにやさしく みんなに笑顔で

六年生 種茂 衣吹

変わってく 遊具も中身も 外見も

新たな学校 新の県居

六年生 五島 颯人

勉強が はかどっているよ みんながね

あいさつもして 心がほかほか

六年生 大瀧 星那

県居の 和歌はつづくよ どこまでも

これからずっと ひびいていく

六年生 藤田 雫月

朗誦を 昔と変わらず 読み続け

伝統引き継ぎ 時代が変わる

六年生 中尾 匠牙



節目の県居小学校

～10年ごとの顔～

県居小学校の航空写真と校舎

創立 50 周年
1969 年（昭和 44 年）



創立 60 周年
1979 年（昭和 54 年）



創立 70 周年
1989 年（平成元年）



創立 80 周年
1999 年（平成 11 年）



創立 90 周年
2009 年（平成 21 年）



県居小学校 創立100周年記念 記念碑



県居小学校創立100周年を記念して子供たちの昇降口前に「記念碑」を設置しました。

この記念碑には、県居小の校章、子供たちの大好きな「五輪の山」の説明等が書かれています。裏面には、大正9年、本校が濱松縣居尋常小學校として創立してから校名の変遷も刻みました。

さらにこの記念碑は、子供たちの未来への夢を包み込むためのものでもあります。

それが、

～未来ポスト「未来のわたしへ」～

です。

県居小学校を卒業するとき、未来の自分に宛てた手紙をこのポストの中に投函していきます。未来の自分はどんな人になっているのだろう。どんな大人になっているのだろう。未来の自分に夢を馳せて手紙を書き投函します。

投函から8年後、成人式を迎える子供たちがこのポストの中から、6年生だった自分からの手紙を受け取ります。6年生の時はこんな夢を持っていたんだ、あの時の自分はこうだったな・・・と。

今の子供たちには未来への夢を。未来の子供たちには自分の振り返りを。

この記念碑の中には、県居小の子供たちの夢、未来が封入されています。



ご協力いただいた関係者方々 (順不同)

資料提供者

田中 小夜子 様
内田 裕次 様
鈴木 競子 様
植田 幸伸 様
加瀬 美智子 様
(旧姓 萩田)
太田 歩 様
長谷川 雅裕 様
本多 秀行 様
河合 美江子 様
河合 孝枝 様
鈴木 博久 様
鈴木 信義 様
袴田 雅夫 様

アンケート協力者

壽山 隆久 様
昭和20年度卒業
平松 激人 様
昭和20年度卒業
川合 康彦 様
昭和20年度卒業
今村 昭八 様
昭和20年度卒業
見野 友彦 様
昭和20年度卒業
本多 秀行 様
昭和21年度卒業
木全 富雄 様
昭和21年度卒業
伊藤 博未知 様
昭和25年度卒業
後藤 美佐子 様
昭和34年度卒業
茶道の先生
山崎 ひとみ 様
昭和41年度卒業

参考資料・参考文献

賀茂真淵記念館 賀茂真淵物語

浜松市立西小学校 西小学校創立100周年記念誌

浜松市図書館 最新実測浜松市全図
浜松市戦災史資料
ひとことで綴る縣居校の思い出

県居小学校 静岡県の学校
県居のひびき
広報あがたい
県居読本
創立40周年記念誌
創立90周年記念誌

その他 インターネット
・西部中歴史
写真(なわとび)
・今井写真館
写真
・早川大介

県居小学校創立100周年 記念事業実行委員会

令和2年度 県居小学校職員

委員長
PTA会長 本多 正明

副委員長
自治会連合会長
自治会長（西菅原） 稲垣 元昭

副委員長
校長 池谷 智晴

会計
PTA副会長 加藤 幸弘

会計監査
連合会副会長
自治会長（平田） 平井 一章

会計監査
元PTA役員 天野 啓介

事務局長
元PTA会長 堀 由司

自治会長（塩町） 清水 良和
松本 陽一
伊藤健一郎

自治会長（成子） 鈴木 博久

自治会長（旅籠） 石川 英男

自治会長（元魚） 宮崎 秀和

自治会長（菅原） 徳増 恵司

自治会長（東伊場） 高田 正邦
中西洋一郎

元PTA役員
小宮山佳明
木下 忠義
山田 勝夫
竹内 隆介
徳増 大輔
内山 吟子
久保田 桜
山崎 宏美
高塚まさみ
小楠 枝里
瀧井智也子
柳原 祐子
山本 有美
松島 祐子

校長 池谷 智晴
教頭 土屋 晶宏
教諭 小野田宏子

田中由美子
鈴木 範子
増田千寿乃
大川 博
山内 剛治
伊熊 繭子
渡邊奈緒美
長谷川泰大
東原 弘貴
高野 友
古橋 沙織
鈴木 早織
杉浦 秀祐
渡辺 一平
杵屋 美希

養護教諭 榊原奈津見
事務職員 鈴木 典子
教諭 田代詠美子

主任給食員 鈴木 信充
萩原 実結
青嶋 友紀
大石 道子
桜井 英子
伊藤 祐子

令和元年度 県居小学校職員

教諭 山岡由起子
岡本 綾子
深津 紘輝
副主幹 仲村 綾子
教諭 遠藤 凌太
主任給食員 野嶋 優子

令和2年度 県居小学校PTA役員

デザイン・制作・PTA副会長 早川 大介
PTA副会長 袴田 晃弘
竹山 和成
服部 嘉秀
谷野由利子
金原 千春
原 悠
玉上 綾子
PTA庶務 徳永もも子
増田 可織





創立100周年記念誌
県居小学校創立100周年記念実行委員会